

2025年度 博士後期課程シラバス

＜2025年度大学院授業の実施方針＞

研究指導、実習を要する科目以外の科目については、原則として(※)遠隔授業(双方向オンライン授業もしくは、教材や課題の提示、課題提出の機会、および提出課題に対する担当教員からのフィードバックがあり、学生の意見交換や質問の機会が確保されているオンデマンド授業)で実施する。

※授業効果として対面が望ましい場合で、履修者への確認・許可が得られており、履修者数・教室収容人数も加味し感染対策に十分配慮した前提であれば、科目責任者の判断で対面／遠隔のハイブリッドでの実施も可能とする。

研究指導、実習を要する科目については、科目責任者の判断のもと、対面／遠隔のいずれかで実施する。

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
スポーツ健康科学特別講義	和氣 秀文	2
特別研究	内藤 久士	5
特別研究	廣瀬 伸良	8
特別研究	町田 修一	11
特別研究	吉村 雅文	14
特別研究	和氣 秀文	17
特別研究	中村 充	20
特別研究	廣津 信義	23
特別研究	青木 和浩	26
特別研究	鈴木 良雄	29
特別研究	水野 基樹	32
特別研究	柳谷 登志雄	35
特別研究	福 典之	38
特別研究	小笠原 悦子	41
特別研究	高澤 祐治	44
特別研究	鈴木 宏哉	47
特別研究	吉田 和人	50
特別研究	黄田 常嘉	53
特別研究	谷本 道哉	56
スポーツ科学特別演習	内藤 久士	59
スポーツ科学特別演習	廣瀬 伸良	62
スポーツ科学特別演習	廣津 信義	65
スポーツ科学特別演習	鈴木 良雄	68
スポーツ科学特別演習	中村 充	71
スポーツ科学特別演習	町田 修一	73
スポーツ科学特別演習	吉村 雅文	76
スポーツ科学特別演習	柳谷 登志雄	79
スポーツ科学特別演習	和氣 秀文	82
スポーツ科学特別演習	青木 和浩	85
スポーツ科学特別演習	高澤 祐治	88
スポーツ科学特別演習	吉田 和人	91
スポーツ科学特別演習	鈴木 宏哉	94
スポーツ科学特別演習	福 典之	97
スポーツ科学特別演習	谷本 道哉	100
スポーツ医学特論(内科学)	深尾 宏祐	102
スポーツ栄養・生化学特論	鈴木 良雄	105
スポーツバイオメカニクス特論	柳谷 登志雄	108
コーチング科学特論	廣瀬 伸良／中村 充／青木 和浩／吉村 雅文／廣津 信義	111
スポーツ医学特論(運動器系)	高澤 祐治	114
スポーツ社会科学特別演習	水野 基樹	117
スポーツ社会科学特別演習	小笠原 悦子	120
スポーツ社会学特論	工藤 康宏／渡 正	123
スポーツ文化論特論	渡 正／小野 雄大	126
健康科学特別演習	佐々木 啓	129
健康科学特別演習	松山 毅	133
健康科学特別演習	黄田 常嘉	136
健康科学特別演習	前鼻 啓史	140
環境健康科学特論	佐々木 啓	144
精神保健科学特論	黄田 常嘉	148
ハイパフォーマンス科学特別演習	青木 和浩／高澤 祐治／山中 航／鈴木 良雄／深尾 宏祐／谷本 道哉／和氣 秀文／福 典之／室伏 由佳／宮本 直和／小泉 和之	151

科目名	スポーツ健康科学特別講義			授業形態	講義
英語科目名	Special Lecture on Health and Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	和氣 秀文			ナンバリング	
担当教員	和氣 秀文				
授業概要					
全体内容	本科目は、学会参加と講義の2つのパートで構成される。学会参加は、自身の専門とする分野の学会、及び自身の専門外の学会にそれぞれ1つずつ参加することとする。講義は集中講義で実施する。 これにより、自身の専門領域にとどまらない幅広い分野に立脚した視点を養い、研究にフィードバックすることを目標とする。				
到達目標	・ 他者の研究や専門外の分野の成果を自身の研究に引き付けて捉えることができる。 ・ 他者の発表内容を簡潔にまとめ、わかりやすく報告することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 本科目は、学会参加と講義(集中講義)の2つのパートへの参加を必須とする。 詳細は下記「授業計画」の欄の通り。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特に無し。				
成績評価の方法					
評価方法	傍聴記50%、平常点50% を総合して評価する。				
評価基準	・ 他者の研究や専門外の成果を自身の研究と関連して捉え、積極的に取り入れている(傍聴記)。 ・ 講義参加時の発言、グループワークの取組姿勢等(平常点)。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
研究指導教員から随時指導を行なう。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
テキストは特に指定しない。学会参加前に当該分野の基礎的な文献や、直近の研究成果を確認しておくことが望ましい。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：青木 和浩 E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） 担当：和氣 秀文 E-mail: hwaki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜青木 和浩＞ 日時：水曜日 13:10～14:45 場所：1号館5階1509室 ＜和氣 秀文＞ 日時：火曜日午後 場所：スポーツ健康医科学研究所3階 生理学研究室（9304）				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	内藤 久士			ナンバリング	
担当教員	内藤 久士				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学分野での研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツ健康科学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問 (30%)、平常点 (50%) を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：内藤 久士 E-mail: hnaitou[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 火曜日 12:10～13:00 場所： 1号館1階1117室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： 随時 E-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室など				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 災害や感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～11	内藤 久士	各自の修士論文をもとに、文献考証を発展させる。 修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。	演習形式（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べる こと。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	廣瀬 伸良			ナンバリング	
担当教員	廣瀬 伸良				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、柔道の競技力向上に関連する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 柔道の競技力向上に関する分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣瀬 伸良 E-mail: nhirose[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 12:20～13:10 場所： 1号館5階1506室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： E-mailで問い合わせること。 場所： 随時指定します。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	町田 修一			ナンバリング	
担当教員	町田 修一				
授業概要					
全体内容	〔授業全体の内容〕 各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	〔授業の到達目標〕 本授業では、教員・他学生との討議や博士論文の作成を通じて、高い倫理観を醸成していくとともにスポーツ健康科学に関する高度な専門的知識、研究能力、高度で先進的な専門業務への応用性を高めることができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 研究指導教員の指示に従うこと。 〔履修上の注意〕 課題を期日までに実施し、指導教員と連絡を密にすること。				
成績評価の方法					
評価方法	〔成績評価の方法〕 取り組む姿勢20%、授業で課される課題30%、博士論文に対する取り組み50%で評価する。				
評価基準	〔成績評価の基準〕 1. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、博士論文を完成できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
〔課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法〕 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
〔テキスト・参考書〕 適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	〔さくら〕 水曜日 13:00～14:30 1号館1階1118室 〔本郷〕 適宜 オンラインでの対応 〔メール〕 machidas@juntendo.ac.jp				
担当教員の実務経験					
備考	〔学修時間〕 この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 〔その他〕 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～10	町田	（授業内容） 各自の修士論文をもとに、文献考証を進展させる。 （授業方法） 演習として修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。	修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。授業は実習の形態で行う。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べる	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	吉村 雅文			ナンバリング	
担当教員	吉村 雅文				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、球技コーチングの分野で、競技力向上に関して、技術、体力、戦術、試合中のパフォーマンス等々を定量化した中で、今後のコーチング現場に貢献できる研究について検討し、博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 球技コーチングの分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる。（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる。（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する。（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
					テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。
参考文献					
必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、自主的に取り寄せ、精読していただきたい。さらに、必要に応じ、授業時に資料を配付するので、予習復習に役立てもらいたい。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉村 雅文 E-mail: msyoshi[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：月曜日および金曜日 12:00～12:50 場所：1号館5階1528室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経歴					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	和氣 秀文			ナンバリング	
担当教員	和氣 秀文				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、生理学の分野で、運動時の中枢性循環調節機序、高強度運動による中枢性疲労の機序、運動習慣が生活習慣病を改善する機序など、神経科学や循環生理学に関する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・検証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 生理学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和氣 秀文 E-mail: hwaki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日午後 場所：スポーツ健康医科学研究所3階 生理学研究室（9304） ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※遠隔授業の際や授業が無い期間はE-mailで連絡すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室（対面授業の場合に限る）				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	中村 充	ナンバリング			
担当教員	中村 充				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツコーチング科学の分野で、スポーツ・競技・武道について、競技分析、指導法、競技特性の明確化などを検討するなど、コーチング科学を応用する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツコーチング科学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意 (科目独自のルール)] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート (20%)、口頭試問 (30%)、平常点 (50%) を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる (レポート) 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる (口頭試問) 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する (平常点)				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に適宜、指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：中村 充 E-mail: mtnakamu[at]juntendo.ac.jp ([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] くさくらキャンパス 日時： 木曜日 10:00～12:00 場所： 1号館5階1505室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間 (授業90時間以上を含む) の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～10	中村 充	各自の修士論文をもとに、文献考証を発展させる。	修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証した内容を発表する。 研究課題の独創性について提起し、その内容を討議する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 (復習：2時間/回) 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	廣津 信義			ナンバリング	
担当教員	廣津 信義				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ数理科学の分野で、スポーツ・競技について、戦術の最適化や、選手・チームの評価、試合形式・ルール・日程などを検討するなど、数理科学を応用する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツ数理科学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣津 信義 E-mail: nhirotsu[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：火曜日 13:10～14:45 場所：1号館3階1327室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	青木 和浩	ナンバリング			
担当教員	青木 和浩				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、体カトレーニングの分野で、測定系スポーツの体力やパフォーマンスの評価や様々なスポーツにおけるトレーニングやコーチング方法に関連する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 測定系スポーツ・体カトレーニングの分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：青木 和浩 E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 12:10～12:50 場所：1号館5階1509室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 場所：センチュリータワー南5階教員控室 ※できるだけE-mailで連絡をしてください。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] ※授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	鈴木 良雄	ナンバリング			
担当教員	鈴木 良雄				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ栄養、生化学の分野で、栄養素、機能性成分が人間の健康状態や運動機能に与える影響を検討するなど、人間栄養学研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツ栄養、生化学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木 良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：月曜日 13:10～14:45 場所：1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	水野 基樹	ナンバリング			
担当教員	水野 基樹				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] 組織行動学の枠組みを用いて、組織体（スポーツ組織、企業組織、医療組織、行政組織、NPO組織など）に関する文献研究や実証研究を展開し、組織マネジメント研究についての博士論文の作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する。研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 提議書に基づく調査およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツマネジメントおよび健康マネジメントの分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 取り組む姿勢20%、授業で課される課題30%、博士論文に対する取り組み50%で評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、博士論文を完成できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
					授業の際に提示する。
参考文献					
授業の際に提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー		[連絡先] 担当：水野基樹 E-mail: mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 14:40～16:10 場所：1号館3階1324室 ※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 ※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 場所：センチュリータワー南5階教員控室 ※授業がない期間はE-mailで予約すること。			
担当教員の実務経験					
備考		この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、授業90時間と準備学習180時間の計270時間の学修を必要とする内容をもって構成する。			
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	柳谷 登志雄	ナンバリング			
担当教員	柳谷 登志雄				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論・関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツバイオメカニクス、スポーツ動作分析に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。				
到達目標	1. スポーツ動作の上達や熟練者・未熟練者の相違について、スポーツ医科学分野の用語を使って説明できる。 2. スポーツ科学研究を行う上での視点や基礎知識を習得し、課題を解決するための方策を立案できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士前期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 授業中に指示する。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点） [成績評価の方法] 課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問（20%）、平常点（40%）を総合して評価する。定期試験は実施しない予定です。				
評価基準	1. スポーツバイオメカニクス分野における用語の意味を理解し、知識を整理できている（課題レポート）。 2. スポーツ科学における法則性について論理的に正しく説明できる（小テスト2回）。 3. 授業中の発言や、グループワーク等において積極的に取り組んでいる（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内や google classroom を用いた添削やコメントにより行う					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：柳谷登志雄 E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 13:10～14:45 場所：1号館3階1513室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経歴					

備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。			
	[その他]			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	柳谷登志雄	[授業内容] スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイデアをもとに、研究課題を設定する。 [授業方法] 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイデアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 (復習：2時間/回) 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	柳谷登志雄	[授業内容] 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 [授業方法] 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 (復習：3時間/回) 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～15	柳谷登志雄	[授業内容] 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 [授業方法] 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 (復習：3時間/回) 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	柳谷登志雄	[授業内容] 調査・実験を遂行する。 [授業方法] 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 (復習：2時間/回) 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	柳谷登志雄	[授業内容] 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 [授業方法] 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 (復習：2時間/回) 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～28	柳谷登志雄	[授業内容] 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 [授業方法] 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 (復習：2時間/回) 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
基本的にはオンラインによる指導であるが、必要に応じて対面での受動も実施する。		定期試験は実施しない		

科目名	特別研究	授業形態	演習	
英語科目名	Special Research	対象学年	1年	
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位	
代表教員	福 典之	ナンバリング		
担当教員	福 典之			
授業概要				
全体内容	スポーツ遺伝学や体力科学の分野では、競技力向上ならびに健康維持増進に向けた運動について、タレント発掘や適正種目の選択、トレーニング効果やスポーツ傷害などに関する遺伝要因と環境要因を検討するなど、スポーツ遺伝学や体力科学に関する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する。研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。			
到達目標	1. 研究計画書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツ遺伝学や体力科学の分野で博士論文を完成することができる。			
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。			
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。			
成績評価の方法				
評価方法	取り組む姿勢20%、授業で課される課題30%、博士論文に対する取り組み50%で評価する。			
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、博士論文を完成できるか。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
授業中に適宜示す。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：福 典之 E-mail: nfukui[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 木曜日 13:00～14:30 場所： スポーツ健康医科学研究所2階9203室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室			
担当教員の実務経験				
備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～10	福典之	各自の修士論文をもとに、文献考証を発展させる。	【ディスカッション】 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べる こと。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	小笠原 悦子	ナンバリング			
担当教員	小笠原 悦子				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツマネジメントの分野で、リーダーシップ、組織文化、女性スポーツにおける課題を検討するなど、スポーツマネジメント学を応用する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツマネジメント学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力」、「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度な専門性を求められる職業等に活かし、指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問（30%）、平常点（50%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：小笠原 悦子 E-mail：eogasawa@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 2時間目 場所：1号館3階1329室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： ※授業前に関してはE-mailで予約すること。 場所：女性スポーツ研究センター				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、授業90時間と準備学習180時間の計270時間の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～10	小笠原	[授業内容] 各自の修士論文をもとに、文献考証を発展させる。 [授業方法] 修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。	講義・演習	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 (復習：2時間/回) 教員からの指示に従い授業での不明点を調べる こと。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位		
代表教員	高澤 祐治	ナンバリング			
担当教員	高澤 祐治				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ整形外科、アスレチックリハビリテーション等を応用する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツ整形外科、アスレチックリハビリテーション等の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題については評価のコメントを書いて返却する。その他の課題については、授業内で議論する際に用いる。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー		[連絡先] 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所： 研究所4階9404 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室			
担当教員の実務経歴		[実務経歴のある教員による授業について] 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。			
備考		[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、授業90時間と準備学習180時間の計270時間の学修を必要とする内容をもって構成する。			
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

[illegible]

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究	授業形態	演習		
英語科目名	Special Research	対象学年	1年		
開講学期	2025年度前期（SPR）、2025年度後期（AUT）	単位数	6単位		
代表教員	鈴木 宏哉	ナンバリング			
担当教員	鈴木 宏哉				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学領域における発達発達学および測定評価学の分野で、子どもを対象の中心として取り扱い、形態・機能発達や機能測定に関する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 発達発達学および測定評価学の分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「高い倫理観」、「スポーツ健康科学に関する高度な専門的知識」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「高度で先進的な専門業務への応用性」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木 宏哉 E-mail: ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] くさくらキャンパス 日時：火曜日 17:00～19:00 場所：スポーツ健康医科学研究所3階9303室 く本郷・お茶の水キャンパス 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～10	鈴木	[授業内容] 各自の修士論文をもとに、文献考証を発展させる。	研究に関連する文献を収集・吟味し、高度な独創性を必要とする課題を想起する。 (PBL)	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べる こと。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	吉田 和人			ナンバリング	
担当教員	吉田 和人				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツコーチング科学についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. スポーツコーチング科学分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意 (科目独自のルール)] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート (20%)、口頭試問 (30%)、平常点 (50%) を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる (レポート) 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる (口頭試問) 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する (平常点)				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉田 和人 E-mail: k.yoshida[at]juntendo.ac.jp ([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日 12：00～12:50 水曜日 12：00～12:50 場所： 1号館5階1502室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～10	吉田	各自の修士論文をもとに、文献考証を発展させる。	修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。	(予習：2時間/回) 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 (復習：2時間/回) 教員からの指示に従い授業での不明点を調べること。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究			授業形態	演習
英語科目名	Special Research			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)			単位数	6単位
代表教員	黄田 常嘉			ナンバリング	
担当教員	黄田 常嘉				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、メンタルヘルスの分野で、精神障害、心理状態などを検討するなど、精神医学を応用する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書として纏める。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。				
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. メンタルヘルスの分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究所 博士後期課程に於ける必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 精神保健専攻の博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問（30%）、平常点（50%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
Juntendo Passportや順天堂メールを介して行う。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：黄田 常嘉 E-mail: ota[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] くさくらキャンパス 木曜 1・2限に1号館2階の1216号研究室に在室しています。 く本郷・お茶の水キャンパス 金曜17時以降に大賀ビル7階の精神医学講座の医局に居ります。				
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、外来・入院の診療活動、精神鑑定、学校・企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など多彩な業務経験を有している。その経験を活かし、精神保健における実践的授業を展開する。				
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容を以て構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容		授業方法＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～10	黄田 常嘉	[授業内容] 各自の修士論文を基に、文献考証を発展させる。		[授業方法] 修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマに関連する情報を検索、収集、抄読し、理解を深めておくこと。 （復習：2時間/回） 教員からの指示に従い授業での不明点を調べる こと。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	特別研究	授業形態	演習	
英語科目名	Special Research	対象学年	1年	
開講学期	2025年度前期 (SPR)、2025年度後期 (AUT)	単位数	6単位	
代表教員	谷本 道哉	ナンバリング		
担当教員	谷本 道哉			
授業概要				
全体内容	この授業科目では、運動生理学の分野で、トレーニング科学、筋力トレーニング方法と効果に関連する研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿も行う。			
到達目標	1. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 運動生理学の分野で博士論文を完成することができる。			
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における必修科目に位置付けられる。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」、「高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。			
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士後期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。			
成績評価の方法				
評価方法	課題レポート（20%）、口頭試問（30%）、平常点（50%）を総合して評価する。			
評価基準	1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）			
試験・課題に対するフィードバック方法				
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献				
授業中に指示する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：谷本道哉 E-mail: m. tanimoto.sb@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： 火曜日 12:10～13:00 場所： 1号館5階1516室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室			
担当教員の実務経歴				
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による6単位の科目であり、270時間（授業90時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	内藤 久士			ナンバリング	
担当教員	内藤 久士				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、競技力の向上や健康の増進の基盤としての科学的な諸要因について、組織・細胞・分子・遺伝子レベルでの運動生理・生化学的研究に関する知見を中心に、スポーツ科学研究の新しい展開とその実践方法についての理解を深める。 具体的には、毎回、英語で書かれた学術語論文を抄読していく。				
到達目標	1. 博士論文を完成させるため、スポーツ科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイデアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる。 2. 研究計画に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、博士論文を完成させる能力を身に付けている。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 研究指導教員の指示に従うこと。 〔履修上の注意〕 課題を期日までにしっかりと実施し、研究指導教員との連絡を密にすること。				
成績評価の方法					
評価方法	レポート、プレゼンテーション等（40%）、論文執筆(40%)、学会での発表状況(20%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる（レポート、プレゼンテーション等） 2. 学会発表、論文投稿が出来る（論文執筆） 3. 国内外の学術誌に採択させる（学会での発表、論文執筆）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：内藤 久士 E-mail: hnaitou[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） 〔オフィスアワー〕 ＜さくらキャンパス＞ 日時： 火曜日 12:10～13:00 場所： 1号館1階1117室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： 随時 E-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室など				
担当教員の実務経験					
備考	〔学修時間〕 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 〔その他〕 災害や感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合がある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	内藤 久士	ガイダンスとして、今後の授業の展開についてオリエンテーションを行う。また各自が取り組む研究テーマの概要を発表し、グループディスカッションを行う。	演習形式（講義、発表及びグループディスカッション）	（予習：1時間） 各自の研究テーマをまとめておく。 （復習：3時間） 次回取り上げる論文を精読しておく。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	廣瀬 伸良			ナンバリング	
担当教員	廣瀬 伸良				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] スポーツ競技の指導論とその科学的根拠を総合的に学びスポーツ科学の研究能力と専門性の高い職業人の育成を目指す。 また、その学問的成果を論理的にまとめ、学位論文（博士）を執筆する。スポーツ科学の研究テーマのなかでもコーチングに関わる題材についてその理解を深めていく。国内外の研究論文を講読し、自身の研究に反映させていく。 (キーワード) スポーツ科学、コーチング、対人格闘技、武道				
到達目標	1. スポーツ競技に関する研究論文を抄読し、自らの研究内容を構築することが出来る。 2. スポーツ競技に関する博士論文を計画、執筆、発表が出来る。 3. 国内外の学術誌に投稿し採択される能力を身につけることができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 国内外の論文を講読しながら、自身の研究における題材の独自性を追求できるようにする。また、検証方法についてはコーチング的検証方法により客観的な妥当性を追求できるようにする。 [履修上の注意] とくになし				
成績評価の方法					
評価方法	論文執筆（60%）、口頭試問(20%)、平常点(20%)を総合して評価する。				
評価基準	1. スポーツ科学関連の論文を抄読することで自らの研究を構築できる（論文執筆、口頭試問）。 2. スポーツ競技に関する博士論文を計画、執筆、発表が出来る（論文執筆、口頭試問）。 3. 国内外の学術誌に採択させる（論文執筆）。 4. 研究課題について積極的な学習姿勢で臨むことが出来る（平常点）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートおよび口頭発表の評価については授業内の質疑応答のなかで解説する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
随時、指定する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣瀬 伸良 E-mail:nhirose[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください [オフィスアワー] 場所：1号館5階1506室 日時：メールでの問い合わせに対応。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。 [その他]				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	廣瀬伸良	[授業内容] ガイダンス。 授業の内容についての説明。 受講者の自己紹介。	演習形式 講義形式で解説後に質疑応答をおこなう。各課題に対して各受講生による討議を行う。	(予習：2時間) 自身の修士論文についてまとめる。 (復習：2時間) 授業内容の確認。 教員との連絡方法などの確認。	

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	廣津 信義			ナンバリング	
担当教員	廣津 信義				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツに関する数理科学的なアプローチについての理解を深める。スポーツ競技の試合をシステムとしてとらえ、モデル化する手法に関する知見を軸として、実データを用いた数値計算や統計学的な検証を方法について演習していく。毎回、英語論文を抄読していく。				
到達目標	1. 数学・統計学に関する基礎的事項やその研究手法が理解できる。 2. 各自の研究テーマに従い研究手法を応用できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし [履修上の注意(科目独自のルール)] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 授業内での口頭試問(40%)、レポート(40%)、平常点(20%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 数学・統計学に関する基礎的事項やその研究手法を述べることができる(口頭試問)。 2. 各自の研究テーマに従い研究手法を応用できる(レポート) 3. 授業中の発言やグループワークの取組姿勢によって授業態度を評価する(平常点)				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：廣津 信義 E-mail: nhirotsu[at]juntendo.ac.jp ([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時： さくらキャンパスでの担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： 1号館2階非常勤講師室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業30時間以上を含む)の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	廣津	ガイダンス	授業展開のついてオリエンテーションを行う。	(予習：2時間) 各自の研究テーマをまとめておく。 (復習：2時間) 次回取り上げる論文を精読しておく。	
2～15	廣津	原著論文購読	受講者は、各自の研究テーマに関連した学術雑誌から原著論文を選び、その内容を抄読し発表する。それに基づいて、全員でその内容について議論する。	(予習：各回2時間) 各自の発表準備とともに、他の発表者の専門について知識を深めておく。 (復習：各回2時間) 発表者は質問に対する回答発表準備を行うとともに、質疑応答のまとめを行う。発表者以外は発表及びディスカッションの内容をふまえて論文を再読し、ポイントをまとめておく。	

[illegible]

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	鈴木 良雄			ナンバリング	
担当教員	鈴木 良雄				
授業概要					
全体内容	この授業では、スポーツ栄養および生化学について、遺伝子・細胞レベルから個体レベルまで幅広く学び、「人体の構造と機能」について深く理解する。また、健康やスポーツに関連した生命科学分野の研究を独自に展開し、健康科学あるいはスポーツ科学分野の発展に貢献し得る優れた研究活動を展開していく能力を養う。				
到達目標	1. スポーツ栄養、生化学に関する深い知識を有し、食物と人間との関わり等の概要について説明することができる。 2. スポーツ栄養、生化学に関連した実験方法を理解し、目的にあった研究を効率よく遂行することができる。 3. 得られた結果を纏め、的確に発表することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自分の研究テーマに関連した英文論文を読みこなしておくこと。高い学修意欲をもちながら真摯な態度で授業に望んでほしい。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（50%）、研究発表（口頭試問20%）ならびに論文評価（30%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 食品成分の代謝や機能性、およびそれに関連するシグナル伝達機構の概要についての的確に解説することができる（平常点および口頭試験）。 2. スポーツ栄養、生化学に関連した研究を効率よく遂行することができる（平常点および論文評価）。 3. 得られた結果を纏め、的確に発表することができる（口頭試験および論文評価）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業・実習の中で適時にフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
適宜資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木 良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：月曜日 13:10～14:45 場所：1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学習時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	鈴木良雄	ガイダンスおよびスポーツ栄養、生化学に関する講義を行う。	反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間） 基礎栄養学、特に栄養素代謝とシグナル伝達について学修しておく。 （復習：2時間） 毎回の授業で教員から指示される課題を遂行する。	

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	中村 充			ナンバリング	
担当教員	中村 充				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学に関わる研究について検索し、その背景を探り、研究手法について理解し、その意義や貢献について議論する能力を養う。 具体的には、スポーツコーチングの分野に関わる研究を中心とし、先行研究の視点や意義を探り、各自の研究テーマに照らし合わせながら研究計画や手法について議論しながら深めていく。				
到達目標	1. スポーツ競技に関する研究論文を抄読し、その背景や研究手法について説明できる。 2. スポーツ競技に関する論文を計画、執筆、発表が出来る。 3. 国内外の学術誌に投稿し採択される能力を身につけることができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	〔履修上の注意〕 この授業では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	1. スポーツ競技に関する研究論文を抄読し、その背景や研究手法について説明できる。（口頭試問） 2. スポーツ競技に関する論文を計画、執筆、発表が出来る。（レポート） 3. 国内外の学術誌に投稿し採択される能力を身につけることができる。（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に適宜、指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	〔さくら〕 火曜日 10:00～12:00 [1号館5階 1505号室] E-MAIL：mtnakamu@juntendo.ac.jp ※事前にメール予約してください。				
担当教員の実務経験					
備考	〔学修時間〕 この授業は、実験・実習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	中村 充	授業展開について理解する。	本科目の進行について解説する。	（予習：2時間） 自身の修士論文についてまとめる。 （復習：2時間） 授業内容の確認。 教員との連絡方法などの確認。	
2～15	中村 充	受講者が選出した自己の研究テーマに関連した研究論文について、その内容や成果について理解する。	受講者は、自己の研究テーマに関連する研究論文を抄読した内容について、その背景・方法・データ分析・成果・意義などについてプレゼンテーションし、教員や他学生と討議する。	（予習：各回2時間） 研究テーマに関連した学術雑誌から研究論文を選び、その内容を発表できるように準備する。 （復習：各回2時間） 発表された内容についての議論をまとめ、自分の研究に生かす内容を整理する。	
		定期試験は実施しない。			

科目名	スポーツ科学特別演習		授業形態	演習	
英語科目名	Special Seminar on Sports Science		対象学年	1年	
開講学期	2025年度後期(AUT)		単位数	2単位	
代表教員	町田 修一		ナンバリング		
担当教員	町田 修一				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] 各自の研究テーマに関する世界の最新の情報を入手するために、関連した英語学術雑誌から原著論文を選び、研究の背景や方法、データの解釈、研究成果について抄読し発表する。そして、論文の新規性や独創性、さらに学術的意義などについて討議を行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 博士論文を完成させるために、スポーツ健康科学に関連する文献の考証を行い、各自の独創的なアイデアを基に研究課題を設定できる。 2. 問題提起や研究方法などを明確にした研究計画を作成できる。 3. 研究計画に基づいて調査・実験を実施し、データ解析と考察を行うことで、学会発表や論文投稿ができる。 4. 上記のプロセスを総合し、博士論文を完成させる能力を身につけている。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 研究指導教員の指示に従うこと。 [履修上の注意] 課題を期日までにしっかりと実施し、研究指導教員との連絡を密にするすること。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 取り組む姿勢(25%)、授業で課される課題(25%)、博士論文に対する取り組み(50%)で総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成する。 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできるか 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察ができ、博士論文を完成できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法] 発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書] 適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー		[さくら] 水曜日 13:00～14:30 1号館1階1118室 [本郷] 適宜 オンラインでの対応 [メール] machidas[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください。			
担当教員の実務経歴					
備考		この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、授業計画等が変更となる場合があります。			
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	町田 修一	(授業内容) ガイダンス (授業方法) 授業展開のついてオリエンテーションを行う。	演習	(予習：2時間) 各自の研究テーマをまとめておく。 (復習：2時間) 次回取り上げる論文を精読しておく。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	吉村 雅文			ナンバリング	
担当教員	吉村 雅文				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] コーチングに関する最新の研究を検索し、その研究の背景、方法、データ分析、研究成果について抄読し発表を行う。さらに、研究意義や貢献に関して議論する。				
到達目標	[授業の到達目標] コーチングの視点から、研究課題を捉え、研究デザインを構築することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	[授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関係）] この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」を身に付けるという学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] スポーツ科学に関する基礎的な知識を学修しておくことはもちろんであるが、自分の研究テーマを明確にし、それに関わる専門的な知識を高めておくこと。また、スポーツ界やスポーツ指導が抱える課題や問題についての情報収集に努めること。予習と復習を心掛け講義内で紹介する文献（書籍）については、自主的に取り寄せ、精読すること。 必要に応じ、授業時に資料を配付するので、予習復習に役立てること。必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、積極的に読むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 平常点20%（履修者間でのコミュニケーションをしっかりと取りながら受講できる態度や姿勢）、課題のプレゼンテーションおよび授業内での質疑応答40%（パワーポイントを駆使し分かりやすく伝える能力）、およびレポート課題40%（課題の理解度、文章表現力、国語力）を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 論文内容を適切に理解し発表できるかを評価する。（レポート・プレゼンテーション） 2. クリティカルな思考で論文評価できるかを評価する。（レポート） 3. 各自の研究に反映できるかを評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
					テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。
参考文献					
必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、自主的に取り寄せ、精読していただきたい。 さらに、必要に応じ、授業時に資料を配付するので、予習復習に役立てもらいたい。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉村雅文 E-mail：msyoshi@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] 日時：月曜日および金曜日 12:00～12:50 場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。				
担当教員の実務経歴					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	柳谷 登志雄			ナンバリング	
担当教員	柳谷 登志雄				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツバイオメカニクス、スポーツ動作分析に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。 [授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）] この科目は、「高い倫理観」及び「スポーツ健康科学に関する研究能力」という学位授与方針の達成に寄与する。 [授業の到達目標] 1. スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイデアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書を作成できる。 2. 提議書に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、修士論文を完成させることができる。				
到達目標	1. スポーツ動作の上達や熟練者・未熟練者の相違について、スポーツ医科学分野の用語を使って説明できる。 2. スポーツ科学研究を行う上での視点や基礎知識を習得し、課題を解決するための方策を立案できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士前期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] スポーツバイオメカニクス（講義）も履修していること（履修中も含む） [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。 [課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。 [テキスト・参考書等] 授業中に指示する。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の基準] 1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした提議書が作成できる（レポート） 2. 課題の検討結果や研究成果をプレゼンテーションできる（プレゼンテーション） 3. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察の方法を理解している（口頭試問） 4. 修士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点） [成績評価の方法] 課題レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。 定期試験は実施しない予定です。				
評価基準	1. スポーツバイオメカニクス分野における用語の意味を理解し、知識を整理できている（課題レポート）。 2. スポーツ科学における法則性について論理的に正しく説明できる（小テスト2回）。 3. 授業中の発言や、グループワーク等において積極的に取り組んでいる（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内や google classroom を用いた添削やコメントにより行う					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：柳谷登志雄 E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 13:10～14:45 場所：1号館3階1513室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室			
担当教員の実務経験				
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他]			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	柳谷登志雄	[授業内容] スポーツ健康科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイデアをもとに、研究課題を設定する。 [授業方法] 先行文献を精読・考証し、発表するとともに、教員や他学生との討議を通じて独創的なアイデアを提案していくことで、各自の研究課題を絞り込む。	対面とオンラインを併用して行う	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
5～8	柳谷登志雄	[授業内容] 説得力のある問題提起の仕方を習得する。 [授業方法] 研究課題が適切に設定されていることをバックアップする問題提起を、先行文献の調査や、教員や他学生との討議を通じて行う。	対面とオンラインを併用して行う	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
9～12	柳谷登志雄	[授業内容] 研究方法等を明確にした研究計画を提議書としてまとめる。 [授業方法] 課題に応じた研究方法を検討し、問題提起などと合わせて提議書の形式としてまとめる。	対面とオンラインを併用して行う	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：3時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
13～17	柳谷登志雄	[授業内容] 調査・実験を遂行する。 [授業方法] 論文抄読会を通じて調査・実験の理解を深め、各自の研究課題にあった調査・実験を検討し遂行する。調査・実験を通じてデータを収集する。	対面とオンラインを併用して行う	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
18～22	柳谷登志雄	[授業内容] 収集したデータを解析し考察することで洞察を深める。 [授業方法] 各自の研究で必要となるデータを整理し解析する。得られた結果を文献考証と関連づけて考察する。	対面とオンラインを併用して行う	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、文章にまとめること。
23～30	柳谷登志雄	[授業内容] 考察を深めて修士論文としてまとめていく。学会発表や論文投稿の方法を理解する。 [授業方法] 発表会や討議を通じて考察を深めて、修士論文を完成させていく。学会発表・論文投稿にも取り組んでいく。	対面とオンラインを併用して行う	（予習：2時間/回） 各自の研究テーマおよびその関連分野の資料・情報を積極的に収集すること。 （復習：2時間/回） 各自の研究テーマに基づく実験・調査結果の分析・考察を深めたうえで、指導教員からの指導もふまえ、修士論文として完成させること。
		定期試験は実施しない		

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	和氣 秀文			ナンバリング	
担当教員	和氣 秀文				
授業概要					
全体内容	この授業では、生理学および神経科学について、遺伝子・細胞レベルから個体レベルまで幅広く学び、「人体の構造と機能」について深く理解する。また、健康やスポーツに関連した生命科学分野の研究を独自に展開し、健康科学あるいはスポーツ科学分野の発展に貢献し得る優れた研究活動を展開していく能力を養う。				
到達目標	1. 生理学に関する深い知識を有し、各器官系の概要について説明することができる。 2. スポーツ科学に関連した生理学実験方法を理解し、目的にあった研究を効率よく遂行することができる。 3. 得られた結果を纏め、的確に発表することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 生理学および解剖学の基礎知識を有していること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自分の研究テーマに関連した英文論文を読みこなしておくこと。高い学修意欲をもちながら真摯な態度で授業に望んでほしい。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（50%）、研究発表（口頭試問20%）ならびに論文評価（30%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 各器官系の概要についての確に解説することができる（平常点および口頭試験）。 2. 生理学に関連した研究を効率よく遂行することができる（平常点および論文評価）。 3. 得られた結果を纏め、的確に発表することができる（口頭試験および論文評価）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートを毎回提示し、当日の授業で評価、助言および解説を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
適宜資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	和氣秀文 連絡先：hwaki[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更してください） オフィスアワー：火曜日午後、スポーツ健康医科学研究所3階 生理学研究室（9304）				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	和氣 秀文	ガイダンスおよび生理学に関する講義を行う。	講義およびグループワーク	（予習：2時間） 生理学、特に神経生理学と循環生理学について学修しておく。 （復習：2時間） 毎回の授業で教員から指示される課題を遂行する。	
2～3	和氣 秀文	適宜、生理学に関する講義、英文論文などの抄読を行う。	講義およびグループワーク	（予習：2時間） 英文論文の抄読に関しては、自分の研究テーマに関連した論文（原著でも総説でも構わないが、出来るだけ最新のものを）を説明できるように準備しておく。英文教科書についてはあらかじめ指示のあった範囲を和訳しておく。 （復習：2時間） 毎回の授業で教員から指示される課題を遂行する。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期（AUT）			単位数	2単位
代表教員	青木 和浩			ナンバリング	
担当教員	青木 和浩				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業では、体カトレーニングや競技パフォーマンスのフィールドテストの関係など、コーチングの領域から科学的アプローチの方法を幅広く学び、コーチング現場でのエビデンスデータの検証方法について深く理解する。また、コーチングの実践的研究を通じて、スポーツ科学分野の発展に貢献し得る優れた研究活動を展開していく能力を養う。				
到達目標	[授業の到達目標] １．体カトレーニングに関する深い知識を有し、各競技種目のトレーニング方法について説明することができる。 ２．競技パフォーマンスとフィールドテストの関係を理解し、目的にあった研究を効率よく遂行することができる。 ３．得られた結果を纏め、的確に発表することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] コーチング現場での経験を有しているのが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自分の研究テーマに関連した英文論文を読みこなしておくこと。高い学修意欲をもちながら真摯な態度で授業に望んでほしい。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 平常点（50%）、研究発表（口頭試問20%）ならびに論文評価（30%）を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] １．体カトレーニングの概要についての的確に解説することができる（平常点および口頭試験）。 ２．コーチングに関する体力運動能力の評価に関連した研究を効率よく遂行することができる（平常点および論文評価）。 ３．得られた結果を纏め、的確に発表することができる（口頭試験および論文評価）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 授業内で、試験や課題の模範解答例とポイントの説明を行う。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書等] 適宜資料を配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：青木 和浩 E-mail: k-aoki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 火曜日 12：10～12：50 場所： 1号館5階1509室1号館5階 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 場所： センチュリータワー南5階教員控室 ※できるだけE-mailで連絡してください。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 授業形態は、対面式ではなくオンライン授業で行うこともある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	高澤 祐治			ナンバリング	
担当教員	高澤 祐治				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] スポーツは人間を生理的变化過程に置くということを視野に入れ、競技力の向上や健康の増進の基盤としての 科学的な諸要因について新たな展望を獲得する。 スポーツ種目別、運動器・関節部位別に、主に等運動性筋力測定装置を用い、筋力特性について解説する。また四肢のアライメントを各自に測定させ、障害との関係について解説する。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 筋力、トルク、仕事量などの基礎を理解し、各種スポーツと筋力の特徴について説明できる。 2. 四肢アライメントを正確に測定することができ、障害との関連について解説できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特に競技力に関連した筋力について予め勉強しておいて欲しい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 競技力や健康に関連した最新の情報を自ら更新し、高度な知識と新たな展望の獲得に努めて欲しい。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート(20%)、口頭試問(30%)、平常点(50%)を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる（レポート） 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる（口頭試問） 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題については評価のコメントを書いて返却する。その他の課題については、授業内で議論する際に用いる。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所： 研究所4階9404 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験	[実務経験のある教員による授業について] 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。				
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学修60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 競技者や選手としてスポーツに関わってきた経験を活かして、より理解を深めて欲しい。医学部生を対象とした授業と同等以上のレベルの内容で行うので、積極的に学んで欲しい。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	高澤	(授業内容) 筋力測定の実験を体験する (授業方法) 膝関節などの筋力特性、各疾患群における特性などについて解説する。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
2	高澤	(授業内容) 陸上競技と筋力について理解する。 (授業方法) 陸上競技に重要となる筋力について解説する。	(予習：3時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：3時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
3	高澤	(授業内容) バスケットボールと筋力について理解する。 (授業方法) バスケットボールの特性を踏まえて、関連する筋力について解説する。	(予習：3時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：3時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
4	高澤	(授業内容) バレーボールと筋力について理解する。 (授業方法) バレーボールに関わる筋力について解説する。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
5	高澤	(授業内容) 体操競技と筋力について理解する。 (授業方法) 体操競技の各種目における筋力の関わりについて解説する。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
6	高澤	(授業内容) 陸上競技の実践について理解する。 (授業方法) スポーツ現場等に、実際に出向き、障害・筋力などに触れさせる。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
7	高澤	(授業内容) 陸上競技の実践について理解する。 (授業方法) スポーツ現場等に、実際に出向き、障害・筋力などに触れさせる。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
8	高澤	(授業内容) バスケットボールの実践について理解する。 (授業方法) スポーツ現場等に、実際に出向き、障害・筋力などに触れさせる。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
9	高澤	(授業内容) バレーボールの実践について理解する。 (授業方法) スポーツ現場等に、実際に出向き、障害・筋力などに触れさせる。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
10	高澤	(授業内容) 体操競技の実践について理解する。 (授業方法) スポーツ現場等に、実際に出向き、障害・筋力などに触れさせる。	(予習：2時間) 授業内容について各種資料・文献にあたり理解を深めておく。 (復習：2時間) 授業で提示する課題・キーワードについてまとめる。
11	高澤	(授業内容) 各自で行った筋力測定および分析結果についてプレゼンテーションする。 (授業方法) 各自に筋力測定と分析を行わせ、プレゼンテーションさせる。 発表者以外は、各自で調べたことをベースに、質問し自分の意見を述べるように促す。	(予習：2時間) 各種資料・文献にあたりプレゼンテーションの準備をする。 (復習：2時間) 授業を通して学んだことを整理する。
12	高澤	(授業内容) 各自で行った筋力測定および分析結果についてプレゼンテーションする。 (授業方法) 各自に筋力測定と分析を行わせ、プレゼンテーションさせる。 発表者以外は、各自で調べたことをベースに、質問し自分の意見を述べるように促す。	(予習：2時間) 各種資料・文献にあたりプレゼンテーションの準備をする。 (復習：2時間) 授業を通して学んだことを整理する。
13	高澤	(授業内容) 各自で行った筋力測定および分析結果についてプレゼンテーションする。 (授業方法) 各自に筋力測定と分析を行わせ、プレゼンテーションさせる。 発表者以外は、各自で調べたことをベースに、質問し自分の意見を述べるように促す。	(予習：2時間) 各種資料・文献にあたりプレゼンテーションの準備をする。 (復習：2時間) 授業を通して学んだことを整理する。

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	吉田 和人			ナンバリング	
担当教員	吉田 和人				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、コーチング科学領域の文献調査し、研究の背景、データ収集の方法、データ分析の方法、データの解釈、研究成果、課題などを理解し、発表・討論する。				
到達目標	1. 研究テーマを設定し、問題の所存、仮説、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる。 2. 研究計画に基づきデータ収集・分析を行い、その成果を効果的にプレゼンテーションできる。 3. 国内外の学術誌に論文を投稿し、採択させる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修上の注意] この授業では、研究の発表や討論が中心になるため、能動的に取り組むこと。 [履修要件] 研究指導教員の指示に従うこと。				
成績評価の方法					
評価方法	授業への取り組み（40%）、論文執筆(40%)、学会・研究会での発表状況(20%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 研究テーマを設定し、問題の所存、仮説、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる（レポート、プレゼンテーション等） 2. 研究成果をまとめることができる（論文執筆） 3. 国内外の学会で研究発表できる（プレゼンテーション、質疑応答等） 4. 国内外の学術誌に、論文を採択させる（論文執筆、査読結果への適切な対応）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックは、授業の中で行う。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
					資料などについて、授業の中で適宜指示する。
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：吉田 和人 E-mail: k.yoshida[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] くすくらキャンパス 日時：水曜日 12:10～13:00 場所：1号館5階1502室 く本郷・お茶の水キャンパス 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	吉田 和人	ガイダンス	授業の展開についてオリエンテーションを行う。	（予習：2時間） 各自の研究テーマをまとめておく。 （復習：2時間） 次回取り上げる論文を精読しておく。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	鈴木 宏哉			ナンバリング	
担当教員	鈴木 宏哉				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、幼児期から青年期の体力および発育発達に及ぼす社会生活環境要因について、発育発達学および測定評価学的研究に関する知見を中心に、スポーツ健康科学研究の新しい展開とその実践方法についての理解を深める。 具体的には、毎回、英語で書かれた学術語論文を抄読していく。				
到達目標	1. 博士論文を完成させるため、スポーツ科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイデアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる。 2. 研究計画に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、博士論文を完成させる能力を身に付けている。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 研究指導教員の指示に従うこと。 [履修上の注意] 課題を期日までにしっかりと実施し、研究指導教員との連絡を密にすること。				
成績評価の方法					
評価方法	レポート、プレゼンテーション等（40%）、論文執筆(40%)、学会での発表状況(20%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる（レポート、プレゼンテーション等） 2. 学会発表、論文投稿が出来る（論文執筆） 3. 国内外の学術誌に採択させる（学会での発表、論文執筆）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木 宏哉 E-mail: ko-suzuki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：水曜日 12:00～17:00 場所：スポーツ健康医科学研究所3階9303号室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	鈴木 宏哉	[授業内容] ガイダンス	今後の授業の展開についてオリエンテーションを行う。（講義）	（予習：2時間） 各自の研究テーマをまとめておく。 （復習：2時間） 次回取り上げる論文を精読しておく。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	福 典之			ナンバリング	
担当教員	福 典之				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、競技力の向上や健康の増進の基盤としての科学的な諸要因について、スポーツ遺伝学的研究に関する知見を中心に、スポーツ健康科学研究の新しい展開とその実践方法についての理解を深める。具体的には、毎回、英語で書かれた学術論文を抄読していく。				
到達目標	1. 博士論文を完成させるため、スポーツ科学に関連する文献の考証と各自の独創的なアイデアをもとに、研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる。 2. 研究計画に基づく調査・実験およびデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿ができる。 3. 上記を総合し、博士論文を完成させる能力を身に付けている。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 研究指導教員の指示に従うこと。 [履修上の注意] 課題を期日までにしっかりと実施し、研究指導教員との連絡を密にすること。				
成績評価の方法					
評価方法	レポート、プレゼンテーション等（40%）、論文執筆(40%)、学会での発表状況(20%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 研究課題を設定し、問題提起、研究方法等を明確にした研究計画を作成できる（レポート、プレゼンテーション等） 2. 学会発表、論文投稿が出来る（論文執筆） 3. 国内外の学術誌に採択させる（学会での発表、論文執筆）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に適宜示す。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：福 典之 E-mail：nfuku[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] くさくらキャンパス 日時： 水曜日 13:00～15:30 場所： スポーツ健康医科学研究所2階9203室 く本郷・お茶の水キャンパス 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※E-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	福典之	ガイダンス	今後の授業の展開についてオリエンテーションを行う。	（予習：4時間） 各自の研究テーマをまとめておく。 （復習：4時間） 次回取り上げる論文を精読しておく。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Sports Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	谷本 道哉			ナンバリング	
担当教員	谷本 道哉				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学に関わる研究について検索し、その背景を探り、研究手法について理解し、その意義や貢献について議論する能力を養う。 具体的には、運動生理学・トレーニング科学の分野に関わる研究を中心とし、先行研究の視点や意義を探り、各自の研究テーマに照らし合わせながら研究計画や手法について議論しながら深めていく。				
到達目標	1. 運動生理学に関する研究論文を抄読し、その背景や研究手法について説明できる。 2. 運動生理学に関する論文を計画、執筆、発表が出来る。 3. 国内外の学術誌に投稿し採択される能力を身につけることができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	〔履修上の注意〕 この授業では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（40%）、授業内での口頭試問（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 運動生理学に関する研究論文を抄読し、その背景や研究手法について説明できる。（口頭試問） 2. 運動生理学に関する論文を計画、執筆、発表が出来る。（レポート） 3. 国内外の学術誌に投稿し採択される能力を身につけることができる。（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に適宜、指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：谷本道哉 E-mail: m.tanimoto.sb@juntendo.ac.jp 〔オフィスアワー〕 くさくらキャンパス 日時：火曜日 12:10～13:00 場所：1号館5階1516室				
担当教員の実務経験					
備考	〔学修時間〕 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 〔その他〕				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	谷本道哉	授業展開について理解する。	ガイダンスを行う	（予習：2時間） 自身の修士論文についてまとめる。 （復習：2時間） 授業内容の確認。 教員との連絡方法などの確認。	
2～15	谷本道哉	受講者は研究テーマに関連研究論文を選び、その内容を抄読し、その内容を理解する。	研究論文の背景、方法、データ分析、成果、意義などについてプレゼンテーションし、ディスカッションする。	（予習：各回2時間） 研究テーマに関連した学術雑誌から研究論文を選び、その内容を発表できるように準備する。 （復習：各回2時間） 発表された内容についての議論をまとめ、自分の研究に生かす内容を整理する。	
		定期試験： 無し			

科目名	スポーツ医学特論(内科学)			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Sports Medicine			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	深尾 宏祐			ナンバリング	
担当教員	深尾 宏祐				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツ医学(内科)の分野において、運動と循環器病の関連に関する研究や、アスリートのメディカルチェックや内科的なコンディショニングなどについての基礎知識を習得する。 具体的には、指定教科書や資料にそって基本的知識を学ぶほか、論文抄読会などを通じて、最新のデータを議論し、学習する。				
到達目標	1. スポーツを含めた身体活動や運動により生じる異常、特に内科的な病態・変化の発生要因についての理解を深める。 2. スポーツによる循環器呼吸器系の適応を臨床医学的観点から理解する。 3. アスリートのメディカルチェックの必要性和具体的な項目を理解する。 4. 内科的なコンディショニングについての基礎的事項を理解する。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 生理学、運動生理学の教科書は理解しておくこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特に無し。				
成績評価の方法					
評価方法	1) 授業態度を評価する（15%） 2) 成績評価の基準 1～4 で指定した課題に関するレポートについて、口頭試験も含め、その理解を評価する（35%） 3) 授業における質疑の適切性、討論における論拠、推論の適否を評価する（50%） 4) 定期試験は実施しない。				
評価基準	1. 身体活動や運動と循環器病との関連について説明できる（口頭試験・レポート）。 2. スポーツによる循環器呼吸器系の適応を臨床医学的観点から説明できる（口頭試験・レポート）。 3. アスリートのメディカルチェックの必要性和具体的な項目を説明できる（口頭試験・レポート）。 4. 内科的なコンディショニングなどについての基礎的事項を説明できる（口頭試験・レポート）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
パワーズ運動生理学		内藤久士、柳谷登志雄、他	MEDSI		
参考文献					
授業中に適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：深尾 宏祐 E-mail：fukao777@juntendo.ac.jp [オフィスアワー] ※質問や相談はできるだけ、前日までにE-mailで予約すること。 〈さくらキャンパス〉 日時：後学期中の授業前後1時間程度 場所：スポーツ健康医科学研究所4階9405号室				
担当教員の実務経験	循環器内科医、スポーツドクターである担当教員が、臨床やスポーツイベントにおける体験を含めた講義を行う。				
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	深尾	[授業内容] オリエンテーション	プリントとスライドで講義を進める。	予習：特になし。 （復習：2時間/回） ガイダンスを受け、授業の意義を理解すること。	

2	深尾	運動による呼吸循環器諸量の変化	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 3時間/回) 運動と心肺機能、呼吸機能、心拍数の変化について調べる。 (復習: 2時間/回) 運動と昇圧との関係、運動と呼吸困難感との関係をレポートにまとめること。
3	深尾	スポーツの功罪	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) アスリート・バーンアウト、摂食障害を調べる。 (復習: 2時間/回) 高次脳機能障害の例をレポートにまとめること。
4	深尾	加齢と運動能力	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 高齢者のスポーツ障害を調べる。 (復習: 2時間/回) サルコペニアの定義、その対策をレポートにまとめること。
5	深尾	運動禁忌	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 3時間/回) 急死、心不全の意味を説明する。 (復習: 2時間/回) 運動禁忌の疾患、運動禁忌の時期についてレポートにまとめること。
6	深尾	アスリートに見られる疾患: 貧血	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 貧血の定義を知る。 (復習: 2時間/回) 貧血の種類と至適ヘマトクリット値についてレポートにまとめること。
7	深尾	アスリートに見られる疾患: 心電図変化	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 各種負荷(容量、圧負荷)に対する心臓(心室の形態的)変化を調べる。 (復習: 2時間/回) 心室モデリングの機序をレポートにまとめること。
8	深尾	アスリートに見られる疾患: スポーツ心臓	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) スポーツによる心肥大を何と呼ぶか、事例も含め調べる。 (復習: 2時間/回) アスリートの心拡大、競技種目による相違をレポートにまとめること。
9	深尾	アスリートに見られる病態: 気管支喘息	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 喘息の病態生理を調べる。 (復習: 2時間/回) 運動誘発性喘息の機序とその対策についてレポートにまとめること。
10	深尾	運動と血圧	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 血圧とは何かを調べる。 (復習: 2時間/回) 運動種類と血圧、昇圧機序、各種測定法の原理についてレポートにまとめること。
11	深尾	スポーツによる内科的障害	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 学校教育における熱中症の意味を調べる。 (復習: 2時間/回) 暑熱馴化についてレポートにまとめること。
12	深尾	運動と突然死	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 突然死の定義を調べる。 (復習: 2時間/回) 突然死の段階、機序、処置対策をレポートにまとめること。
13	深尾	スポーツと健康管理	プリントとスライドで講義を進める。	(予習: 2時間/回) 学校スポーツ、社会スポーツ、スポーツ産業における事故について調べる。 (復習: 2時間/回) スポーツにおける適応についてレポートにまとめること。

科目名	スポーツ栄養・生化学特論			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Sports Nutrition and Biochemistry			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	鈴木 良雄			ナンバリング	
担当教員	鈴木 良雄				
授業概要					
全体内容	この授業では、スポーツ栄養および生化学について、遺伝子・細胞レベルから個体レベルまで幅広く学び、「人体の構造と機能」について深く理解する。また、健康やスポーツに関連した生命科学分野の研究を独自に展開し、健康科学あるいはスポーツ科学分野の発展に貢献し得る優れた研究活動を展開できる能力を養う。				
到達目標	1. スポーツ栄養、生化学に関する深い知識を有し、食物と人間との関わり方の概要について説明することができる。 2. スポーツ栄養、生化学に関連した実験方法を理解し、目的にあった研究を効率よく遂行することができる。 3. 得られた結果を纏め、的確に発表することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] スポーツ栄養および生化学の基礎知識を有していること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自分の研究テーマに関連した英文論文を読みこなしておくこと。高い学修意欲をもちながら真摯な態度で授業に望んでほしい。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（50%）、研究発表（口頭試問20%）ならびに論文評価（30%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 食品成分の代謝や機能性、およびそれに関連するシグナル伝達機構の概要についての的確に解説することができる（平常点および口頭試験）。 2. スポーツ栄養、生化学に関連した研究を効率よく遂行することができる（平常点および論文評価）。 3. 得られた結果を纏め、的確に発表することができる（口頭試験および論文評価）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業中に適時随時フィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
適宜資料を配布する。白衣もしくは実験着を必要とするので、各自用意すること。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：鈴木 良雄 E-mail: yssuzuki[at]juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：月曜日 13:10～14:45 場所：1号館2階1223室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	鈴木良雄	ガイダンスおよびスポーツ栄養、生化学に関する講義を行う。	反転授業の形式でグループワークを通じて理解を深めます。	（予習：2時間） 基礎栄養学、特に栄養素代謝とシグナル伝達について学修しておく。 （復習：2時間） 毎回の授業で教員から指示される課題を遂行する。	

科目名	スポーツバイオメカニクス特論	授業形態	演習		
英語科目名	Special Discussion of Sports Biomechanics	対象学年	1年		
開講学期	2025年度後期(AUT)	単位数	2単位		
代表教員	柳谷 登志雄	ナンバリング			
担当教員	柳谷 登志雄				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、スポーツ健康科学における課題の解明に必要な調査・実験等に関する具体的な方法論を学び、データに関する討論、関連文献の考証などを重ねることによって、スポーツバイオメカニクス、スポーツ動作分析に関する質的評価及び量的評価に関連する研究遂行に必要な基礎的能力を身に付けていく。 具体的には、先行文献の精読・考証・発表や教員・他学生との討議を通じて、各自の研究課題を絞り込み、説得力のある問題提起と、研究方法等を明確にした研究計画を策定し提議書としてまとめる。さらに、論文抄読会を通じて調査・実験に関する方法論を理解し、各自の研究課題にあった調査・実験やデータに関する討論を重ねることで考察を深めて、研究成果を修士論文として完成させる。学会発表や論文投稿にも積極的に取り組む。				
到達目標	1. スポーツ動作の上達や熟練者・未熟練者の相違について、スポーツ医科学分野の用語を使って説明できる。 2. スポーツ科学研究を行う上での視点や基礎知識を習得し、課題を解決するための方策を立案できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士前期課程における必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] スポーツバイオメカニクスの基礎知識を有していること。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自らの研究テーマに必要な基礎資料作成を目指し、積極的に取り組むこと。 この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（20%）、プレゼンテーション、（20%）、口頭試問(20%)、平常点(40%)を総合して評価する。				
評価基準	1. スポーツバイオメカニクス分野における用語の意味を理解し、知識を整理できている（課題レポート）。 2. スポーツ科学における法則性について論理的に正しく説明できる（小テスト2回）。 3. 授業中の発言や、グループワーク等において積極的に取り組んでいる（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内や google classroom を用いた添削やコメントにより行う					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	柳谷登志雄 [連絡先] E-mail: tyanagi[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 日時：火曜日 13:10～14:45 場所：1号館3階1513室 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所：センチュリータワー南5階教員控室 宮本直和 [連絡先] E-mail: n-miyamoto●juntendo.ac.jp （●を@に変更してください） [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 原則として月曜昼休み時間帯（12:00～12:50）。ただし、他の予定等との重複を避けるため、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。 〈本郷・お茶の水クラス〉 原則として担当授業の前後1時間程度にオンラインで実施。ただし、他の予定等との重複を避けるため、事前にE-mailで連絡を取ることが望ましい。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					

科目名	コーチング科学特論			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Coaching Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)			単位数	2単位
代表教員	吉村 雅文			ナンバリング	
担当教員	吉村 雅文、廣瀬 伸良、中村 充、青木 和浩、廣津 信義				
授業概要					
全体内容	〔授業全体の内容〕 競技スポーツの現場における指導上の問題点やコーチと選手、選手同士間に生じる軋轢などの発生要因についての理解を深める。また、多様な特性を持つ選手の人格教育をも考慮し、必要とされるコーチの視点、指導哲学、コミュニケーションスキル等について概説し、選手の人間形成に寄与できる知識と方法について理解を深める。国際競技大会に向けた実践コーチング論・情報科学の利用法やチームマネジメント等に関しても理解を深める。この授業はスポーツ医科学的知識の基盤のうえにコーチング科学の人文社会学の幅広い領域を学ぶ必要がある。				
到達目標	1. 重要なトピックスを発表し相互討論ができるようにする。 2. 指定課題に関するレポートを作成し発表し、さらに相互討論により理解を深めることができる。 3. スポーツ教育の在り方について、自己の考えを身につけることができる。 4. 現在のスポーツの諸問題について、自己の考えを述べることができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」を身に付けるという学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	〔履修要件〕 スポーツコーチング総論、スポーツトレーニング総論、スポーツ情報分析論、体育原理などを履修していることが望ましい。 〔履修上の注意（科目独自のルール）〕 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その授業を欠席扱いとする。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（20％）課題レポート（40％）ならびに定期試験（40％）を総合して評価する。				
評価基準	1. スポーツ教育について、自己の考えを述べることができる。（定期試験、レポート） 2. スポーツ諸問題について、自己の考えを述べることができる。（定期試験） 3. 授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは翌週の授業で返却し、解説を行う。定期試験後には、要望があれば個別に解説や指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
スポーツコーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで レイナー・マートン著 大森俊夫／山田 茂 監訳 西村書店					
その他					
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：吉村雅文 E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に修正してください。） 〔オフィスアワー〕 日時：月曜日および金曜日 12:00～12:50 場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。				
担当教員の実務経験					
備考	〔学修時間〕 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	吉村	〔授業内容〕 指導哲学の確立	〔授業方法〕 ゼミナール形式	（予習：3時間） なぜ哲学が必要か調べてくる。 （復習：2時間） 自己認識・自尊心についてまとめる。	
2	吉村	〔授業内容〕 指導目的の設定	〔授業方法〕 ゼミナール形式	（予習：3時間） スポーツの主要目的について調べる。 （復習：2時間） 指導者の個人的目標についてまとめる。	

3	吉村	〔授業内容〕 コーチングスタイルの選択	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：3時間) 3つのコーチングスタイルについて調べる。 (復習：2時間) 成功する指導者の特性についてまとめる。
4	吉村	〔授業内容〕 人格の指導	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) 人格とスポーツマンシップについて調べる。 (復習：1.5時間) なぜ人格指導をするかについてまとめる。
5	吉村	〔授業内容〕 指導の原則	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) ゲーム形式のコーチング方法について調べる。 (復習：1.5時間) 技術的・戦術的スキルについてまとめる。
6	廣瀬	〔授業内容〕 指導のための計画	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：3時間) 計画を立てることの利点について調べる。 (復習：2時間) 選手を知る、指導法を選択する、練習を計画するについてまとめる。
7	廣瀬	〔授業内容〕 行動の原則	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：3時間) 選手とのコミュニケーションについて調べる。 (復習：2時間) コミュニケーションにおける6つのステップについてまとめる。
8	広津	〔授業内容〕 選手のモチベーションの向上	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) 外的・内的報酬について調べる。 (復習：1.5時間) 自分に自信に価値があると感じることの必要性についてまとめる。
9	広津	〔授業内容〕 マネジメントの原則	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) チームのマネジメントについて調べる。 (復習：1.5時間) ポリシー、情報、イベント、財務の各マネジャーについてまとめる。
10	青木	〔授業内容〕 フィジカルトレーニングの原則	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) トレーニングの基礎についてしらべる。 (復習：1.5時間) フィジカルトレーニングにおけるコーチの役割についてまとめる。
11	青木	〔授業内容〕 筋フィットネスのトレーニング	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) 競技に必要な筋機能について調べる。 (復習：1.5時間) 筋フィットネスのテストについてまとめる。
12	中村	〔授業内容〕 人間関係のマネジメント	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) 人間関係のスキルについて調べる。 (復習：1.5時間) 特別な人間関係についてまとめる。
13	中村	〔授業内容〕 リスクマネジメント	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2.5時間) リスクマネジメントのプロセスについて調べる。 (復習：1.5時間) コーチの法的義務についてまとめる。
14	吉村	〔授業内容〕 スポーツの価値	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2時間) 求められる新たなスポーツの価値について調べる。 (復習：1時間) 新たなスポーツの価値の必要性についてまとめる。
15	吉村	〔授業内容〕 スポーツの価値	〔授業方法〕 ゼミナール形式	(予習：2時間) 求められる新たなスポーツの価値について調べる。 (復習：1時間) 新たなスポーツの価値の必要性についてまとめる。

科目名	スポーツ医学特論(運動器系)			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Sports Medicine			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	高澤 祐治			ナンバリング	
担当教員	高澤 祐治				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] トップアスリート支援のためのスポーツ医科学研究、スポーツ医学の最先端研究について学び、臨床医学についてもスポーツを中心に専門的に理解する。 最先端のスポーツ医科学研究について自ら調べさせ、それを中心にトップアスリート支援に必要な研究について適宜解説する。				
到達目標	1. 運動器疾患を中心に、スポーツ整形外科諸問題について説明できる。 2. スポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 最新のスポーツ科学の話題から深く考察を行うのに必要な知識をできる限り獲得しておくことが望ましい。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 自らの研究テーマに必要な基礎資料作成を目指し、積極的に取り組んで欲しい。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の基準] 1. スポーツ健康科学における高度な専門的知識を身につけ、その内容について説明できる（レポート）。 2. 複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3. 授業内での発言やグループディスカッション等への取り組み姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。 [成績評価の方法] レポート課題（60％）、授業内で発表する内容（20％）、平常点（20％）を総合して評価する。				
評価基準	1. スポーツ医学における運動器の諸問題について説明できる（レポート）。 2. 複数のスポーツに関わるケガや病気について発生機序や症状、治療について説明できる（レポートおよび発表）。 3. 授業内での発言やグループディスカッション等への取り組み姿勢によって受講態度を評価する（平常点）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート課題はコメントを書いて返却し、必要に応じて個別に対応する。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書等] 各自文献検索をし、参考とする。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：高澤祐治 E-mail: ytakaza@juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） 窪田敦之 E-mail: akubota@juntendo.ac.jp （[at] を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時： 授業終了後30分はオープンアワーとする。 場所： 研究所4階9404 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時： 本郷での担当授業の前後1時間程度 ※授業が無い期間はE-mailで予約すること。 場所： センチュリータワー南5階教員控室				
担当教員の実務経験	[実務経験のある教員による授業について] 整形外科・スポーツ医学を専門とする現役医師が、その経験を踏まえてスポーツ活動中の外傷・障害等について講義する。				
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] 競技者や選手としてスポーツに関わってきた経験を活かして、より理解を深めて欲しい。医学部生を対象とした授業と同等以上のレベルの内容で行うので、積極的に学んで欲しい。				
授業計画					

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高澤	(授業内容) 授業の全体像を理解する。 (授業方法) 適宜希望を取り入れ、授業全体の流れを決定する。	講義	(予習：4時間) 各自学びたいことを整理しておく。 (復習：2時間) 各自の今後のスケジュールを立案する。
2	高澤	(授業内容) 整形外科のメディカルチェックについて理解を深める (授業方法) 整形外科のメディカルチェックについて各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義	(予習：3時間) 関節弛緩性、アライメント、下肢伸展挙上テストについて調べておく。 (復習：1時間) 不足していた情報を整理し、まとめる。
3	高澤	(授業内容) 整形外科のメディカルチェックについて理解を深める (授業方法) 整形外科のメディカルチェックについて各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義	(予習：3時間) 下肢伸展挙上テスト、尻あがりテスト、Q角について調べておく。 (復習：1時間) 不足していた情報を整理し、まとめる。
4	高澤	スポーツ外傷 (授業内容) スポーツ外傷について理解を深める (授業方法) スポーツ外傷について各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義	(予習：3時間) 前十字靱帯損傷と筋力について調べておく。 (復習：1時間) 不足していた情報を整理し、まとめる。
5	高澤	(授業内容) 過労性障害について理解を深める (授業方法) 使い過ぎによる過労性障害について各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。		(予習：3時間) 疲労骨折について、シンスプリントの相違点や骨代謝マーカーを中心に調べておく。 (復習：1時間) 不足していた情報を整理し、まとめる。
6	高澤	(授業内容) 軟部組織の外傷・障害について理解を深める (授業方法) 軟部組織の外傷・障害について各自が調べたことを発表させ、適宜解説を加える。	講義	(予習：3時間) 下肢の機能解剖を復習し、肉ばなれや筋力バランスについて調べておく。 (復習：1時間) 不足していた情報を整理し、まとめる。
7	高澤	(授業内容) 肩関節の障害について理解を深める。 (授業方法) 肩関節障害に関する臨床実習を行う。	講義	(予習：3時間) 肩関節障害や野球肘について調べておく。 (復習：1時間) 肩関節障害について重要なポイントを整理し、まとめる。
8	高澤	(授業内容) 下肢の外傷について理解を深める。 (授業方法) 下肢の外傷に関する臨床実習を行う。	講義	(予習：3時間) 代表的な下肢の外傷について調べておく。 (復習：1時間) 下肢の外傷について重要なポイントを整理し、まとめる。
9	高澤	(授業内容) 腰椎疾患について理解を深める。 (授業方法) 腰椎疾患に関する臨床実習を行う。	講義	(予習：3時間) 腰椎疾患について調べておく。 (復習：1時間) 腰椎疾患について重要なポイントを整理し、まとめる。
10	高澤	(授業内容) 上肢の外傷・障害について理解を深める。 (授業方法) 上肢の外傷および障害に関する臨床実習を行う。	講義	(予習：3時間) 上肢の傷害について調べておく。 (復習：1時間) 上肢の外傷と障害それぞれについて重要なポイントを整理し、まとめる。
11	高澤	(授業内容) 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 (授業方法) 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義	(予習：4時間) 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 (復習：2時間) 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。
12	高澤	(授業内容) 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 (授業方法) 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義	(予習：3時間) 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 (復習：1時間) 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。
13	高澤	(授業内容) 骨・関節疾患や筋力分析を主とする論文を発表する。 (授業方法) 各自で調べた論文内容を発表させ、発表者以外には質問を促す。また適宜解説等を加える。	講義	(予習：3時間) 骨・関節疾患もしくは筋力分析に関連した論文を検索し、発表準備をしておく。 (復習：1時間) 発表者は不足情報を整理し、必要に応じて調べてまとめる。 質問者は改めて理解したポイント等をまとめる。

科目名	スポーツ社会科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Social Science in Sports			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	水野 基樹			ナンバリング	
担当教員	水野 基樹				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] スポーツ社会科学研究に必要な調査や実験に関する手法の基本を習得し、研究倫理に關しての理解も深めながら、各自の研究テーマに展開していく能力を養うことを目的とする。 具体的には、経営学とりわけ組織行動学の分野に応じた内容を盛り込みながら、研究計画の立案や提議書の作成方法を文献調査や発表・討議を通じて理解するとともに、研究計画を策定し提議書を試作する。先行研究の批判的検討方法や研究倫理についても抄読や討議を通じて理解を深める。各種実験における測定法・記録法や各種調査の方法ならびにデータ処理の方法についても、各自の研究内容と比較しつつ理解を深めていく。学会発表・論文投稿の方法についても理解する。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. スポーツ社会科学に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程の学生は、必修科目なので必ず履修すること。また、本科目の履修登録は毎年行うこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、能動的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 取り組む姿勢20%、授業で課される課題の達成度80%で評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. スポーツ社会科学に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる（レポート） 2. 文献サーベイ・実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる（レポート） 3. 学会発表・論文投稿ができる（発表） 4. 授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
					授業の際に提示する。
参考文献					
授業の際に提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：水野基樹 E-mail: mtmizuno[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 14:40～16:10 場所：1号館3階1324室 ※上記の時間帯は予約が無くても対応しますが、予約があった学生を優先します。 ※できる限り、前日までにE-Mailで予約するように心掛けてください。 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後1時間程度 場所：センチュリータワー南5階教員控室 ※授業がない期間はE-mailで予約すること。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容		授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間

科目名	スポーツ社会科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Social Science in Sports			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	小笠原 悦子			ナンバリング	
担当教員	小笠原 悦子				
授業概要					
全体内容	【授業全体の内容】 本授業では、学生が高い倫理観を持ち、スポーツ社会科学に関する高度な専門的知識及び実践応力、研究能力を身につけ、スポーツ社会科学領域における博士論文作成の出発点となる論文考証を行うことを目的とする。 スポーツ社会科学領域における博士論文作成の出発点となる論文考証を行い、総説小論文を作成する。具体的な到達目標としては、スポーツマネジメンに関連するトピックに関する総説小論文を作成する。和文でも欧文でもよい。				
到達目標	1. スポーツ社会科学に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる。 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法を実践できる。 5. 学会発表・論文投稿ができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 スポーツマネジメント論を受講していることが望ましい。 【履修上の注意】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 【参考書】 Chelladurai, P. (2014) Managing Organizations for Sport and Physical Activity. Holcomb Hathaway Publishers				
成績評価の方法					
評価方法	平常の授業におけるプレゼンテーション、質疑応答や小論文の内容で評価する。 平常点：40% 1. 研究計画の立案や提議書の作成：10% 2. 先行研究の批判的検討方法：10% 3. 研究倫理が理解：10% 4. 実験・調査の方法、データ処理の方法：10% 5. 学会を模したプレゼンテーション：10% 6. 学会への投稿論文の作成：10%				
評価基準	1. スポーツ社会科学に関する研究計画の立案や提議書の作成ができる 2. 先行研究の批判的検討方法が実践できる。 3. 研究倫理が理解できる。 4. 調査の方法、データ処理の方法を実践できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
スポーツマネジメントに関連するトピックに関する総説小論文に関する査読結果を授業の中で解説する。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業中に紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 E-mail: eogasawa@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 ＜さくらキャンパス＞ 日時：火曜日 2時間目 場所：1号館3階1329室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ 日時：本郷での担当授業の前後30分程度 ※授業前はE-mailで予約すること。 場所：担当授業が行われる教室				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	小笠原	(授業内容) 【オリエンテーション】 授業の進め方、授業計画、成績評価、履修にあたっての留意点など スポーツマネジメントに関する基礎的事項やその研究手法について、 文献や資料にあたり理解を深めると共に、各自の研究テーマにフィードバックできるよう努めること。	(授業方法) 前半：講義、後半：ディスカッション	前掲のテキスト及び参考文献を読み、疑問点について調べてくること。 (復習：1時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
2	小笠原	(授業内容) 【先行研究の精査・分析】 スポーツマネジメントやスポーツ政策に関する文献(書籍・論文)を 収集し、批判的な視点から、読破する。	(授業方法) 文献購読を行い、 批判的な視点から ディスカッション を行う。	(予習：3時間) スポーツマネジメントやスポーツ政策に関する 文献を収集すること。 (復習：2時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
3	小笠原	(授業内容) 【独創的な意見の形成】 先行研究を踏まえ、独創的な意見を平易・明快な表現で記述するための 論証法(演繹法と帰納法)を理解する。	(授業方法) 文献購読を行い、 論証法(演繹法と 帰納法)について ディスカッション を行う。	(予習：3時間) 演繹法と帰納法について事前に調べておくこと。 (復習：2時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
4	小笠原	(授業内容) 【クリティカルリーディング】 共通の論文を用いたクリティカルリーディングの手順を説明する。	(授業方法) 文献購読を行い、 クリティカルリー ディングの手順に ついてディスカッ ションを行う。	(予習：2時間) クリティカルリーディング(批判的読解)につ いて事前に調べておくこと。 (復習：2時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
5	小笠原	(授業内容) 【文献検索1】 スポーツマネジメントの個別テーマ、分野別の最新文献を検索し、批 判的な視点から、読解する。	(授業方法) 文献購読を行い、 批判的な視点から ディスカッション を行う。	(予習：2時間) スポーツマネジメントの個別テーマ、分野別の 最新文献を収集すること。 (復習：2時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
6	小笠原	(授業内容) 【口頭発表1】 スポーツマネジメントの個別テーマに関するテキストクリティークの レジュメを作成し、口頭発表を行う。	(授業方法) 学生の口頭発表 後、発表の内容に ついてディスカッ ションを行う。	(予習：2時間) レジュメを作成し、口頭発表の準備をしておく こと。 (復習：2時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
7	小笠原	(授業内容) 【文献検索2】 スポーツマネジメントの個別テーマ、分野別の最新文献を検索し、批 判的な視点から、読解する。	(授業方法) 文献購読を行い、 批判的な視点から ディスカッション を行う。	(予習：2時間) スポーツマネジメントの個別テーマ、分野別の 最新文献を収集すること。 (復習：2時間) 総説小論文1の作成に取り組むこと。
8	小笠原	(授業内容) 【口頭発表2】 スポーツ社会学の個別テーマに関するテキストクリティークのレジュ メを作成し、口頭発表を行う。	(授業方法) 学生の口頭発表 後、発表の内容に ついてディスカッ ションを行う。	(予習：2時間) レジュメを作成し、口頭発表の準備をしておく こと。 (復習：2時間) 総説小論文2の作成に取り組むこと。
9	小笠原	(授業内容) 【文献検索3】 スポーツマネジメントの個別テーマ、分野別の最新文献を検索し、批 判的な視点から、読解する。	(授業方法) 文献購読を行い、 批判的な視点から ディスカッション を行う。	(予習：2時間) スポーツマネジメントの個別テーマ、分野別の 最新文献を収集すること。 (復習：2時間) 総説小論文2の作成に取り組むこと。
10	小笠原	(授業内容) 【口頭発表3】 スポーツマネジメントの個別テーマに関するテキストクリティークの レジュメを作成し、口頭発表を行う。	(授業方法) 学生の口頭発表 後、発表の内容に ついてディスカッ ションを行う。	(予習：2時間) レジュメを作成し、口頭発表の準備をしておく こと。 (復習：2時間) 総説小論文2の作成に取り組むこと。
11	小笠原	(授業内容) 【総説の書き方】 章立て、節・項立て、研究目的の設定、研究方法、結果と考察、結 論、引用文献等、論文の構成について理解を深める。	(授業方法) 総説の書き方につ いてディスカッ ションを行う。	(予習：2時間) 論文の形式の重要性や論文の構成について事前 に調べておくこと。 (復習：2時間) 総説小論文2の作成に取り組むこと。
12	小笠原	(授業内容) 【文献整理法】 文献情報の閲覧・検索・編集・一元管理の方法について理解を深め る。	(授業方法) 文献情報の閲覧・ 検索等について ディスカッション を行う。	(予習：2時間) 文献整理法について事前に調べておくこと。 (復習：2時間) 総説小論文2の作成に取り組むこと。
13	小笠原	(授業内容) 【プレゼンテーション】 総説小論文1についてのプレゼンテーションを行う。	(授業方法) 学生のプレゼン テーション後、総 説小論文1の内容 についてディス カッションを行 う。	(予習：2時間) プレゼンテーションの準備をしておくこと。 (復習：2時間) 評価シートを作成する。

[illegible]

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ社会学特論			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Sports Sociology			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	渡 正			ナンバリング	
担当教員	渡 正、工藤 康宏				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] この授業科目では、スポーツ社会学の理論や考え方を小テーマに即して再確認することを目的とする。スポーツ社会学の基本文献を読み、解説等を踏まえ、ディスカッションする。				
到達目標	スポーツ社会学の理論や考え方を身に付け、説明できる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 積極的かつ自発的な学修を望む。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート2回（80%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	1. スポーツ社会学の理論について、その基本的内容を述べることができる（レポート） 2. スポーツ社会学の理論に基づいて、スポーツ社会学的観点から今日的課題を設定し、その解決の方向性を論じることができる（レポート） 3. 授業中の発言やグループワークの取り組み状況の成果を評価する（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表・討議を通じて必要な情報や改善内容をフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
菊幸一ほか編『現代スポーツのパースペクティブ』大修館書店（2006） その他、授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 工藤康宏 E-mail: ykudou[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） 渡 正 E-mail: t-watari[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） [オフィスアワー] 工藤：非常勤のため、メールやJ-Passにて対応します。 渡：月曜3限（必ず事前にアポイントメントを取ってください）				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間と準備学習60時間を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	渡	[授業内容] 本授業の目的、対象、進め方 [授業方法] 「スポーツ社会学」とは何かについての理解と文献紹介及び解説を行う。	講義形式	(予習：2時間) データベースを用いて、さまざまな関連文献リストの作成及び既読文献のコメントを作成する。 (復習：2時間) 作成した文献リストの表記やコメントを授業内での指摘に基づいて修正する。	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	スポーツ文化論特論			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Theory of Sports Culture			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)			単位数	2単位
代表教員	渡 正			ナンバリング	
担当教員	渡 正、小野 雄大				
授業概要					
全体内容	本授業では、学校体育や現代スポーツをとりまく諸問題について批判的に思考することを通して、スポーツの文化的特性について深く学んでいく。具体的には、体育・スポーツの形成過程や存在意義、さらには教育的価値について、哲学的ないし歴史社会学的視点から理解していく。				
到達目標	1. スポーツ文化を形成する諸概念についての理解を深め、論理的に説明することができる。 2. 体育・スポーツの原理・原則についての理解を深め、論理的に説明することができる。 3. スポーツ文化研究に必要な学術論文や文献の読み方を学修することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	以下の教科書を必ず入手し、予習をしてから授業に臨むこと。 必要なときは、別途、事前に資料を提供する。				
成績評価の方法					
評価方法	毎時のリアクションペーパー（40％）、課題発表（50％）、平常点（10％）				
評価基準	1. スポーツ文化を形成する諸概念についての理解を深め、論理的に説明することができるかを課題発表とリアクションペーパーによって判断する。 2. 体育・スポーツの原理・原則についての理解を深め、論理的に説明することができるかを課題発表とリアクションペーパーによって判断する。 3. スポーツ文化研究に必要な学術論文や文献の読み方を学修することができるかを課題発表とリアクションペーパーによって判断する。 4. その他、学習態度・意欲を授業中の発言やグループディスカッションへの取り組み状況から評価する。（平常点）				
試験・課題に対するフィードバック方法					
毎回の課題発表についてコメントする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
新時代のスポーツ教育学：Neo Sport Pedagogy and Andragogy		小野雄大・梶将徳編	小学館集英社プロダクション	9784796878944	
参考文献					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 渡 正 E-mail：t-watari [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変換してください 【オフィスアワー】 日時：火曜日 13:00-14:30 場所：研究室（1号館3階1321室） 担当： 小野 雄大 E-mail：y.ono.ib [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変換してください 【オフィスアワー】 日時：金曜日 13:00-14:30 場所：研究室（1号館5階1503室） 【本郷・お茶の水キャンパス】 日時：本郷での担当授業の前後30分程度 ※授業前はE-mailで予約すること。 場所：担当授業が行われる教室				
担当教員の実務経験					
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	小野・渡	（授業内容） オリエンテーション：スポーツ文化論とはどのような学問か？	講義&映像視聴形式で行う。	（予習：2時間） 近代スポーツの成立史について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。	

2	小野・渡	【授業内容】 体育とスポーツ	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 体育とスポーツの関係性について調べておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
3	小野	【授業内容】 フェアプレイとは何か	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) フェアプレイの意義について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
4	小野	【授業内容】 スポーツパーソンシップとは何か	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 「パーソン」の語源や意味について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
5	小野	【授業内容】 スポーツと差別の倫理	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) スポーツにおける差別の具体的事例について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
6	小野	【授業内容】 ドーピングと倫理①	【授業方法】 講義&映像視聴形 式で行う。	(予習:2時間) 東西冷戦の歴史的経緯について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
7	小野	【授業内容】 ドーピングと倫理②	【授業方法】 講義&映像視聴形 式で行う。	(予習:2時間) クリーンスポーツ教育の意義と課題について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
8	小野	【授業内容】 ユーススポーツの倫理	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 近年の運動部活動に関する政策の内容と議論の 論点について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
9	小野	【授業内容】 大学スポーツの倫理	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 日本における大学スポーツの歴史的意義につ いて整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
10	小野・渡	【授業内容】 Edutainmentとスポーツ教育	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 日本におけるeスポーツの普及に関わる課題に ついて整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
11	小野	【授業内容】 セラピューティックレクリエーションの教育的可能性	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 海外におけるセラピューティックレクリエー ションの活用事例について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
12	小野・渡	【授業内容】 スポーツを通じた共生教育	【授業方法】 講義&映像視聴形 式で行う。	(予習:2時間) 日常生活にみられる「共生」の事例について整 理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
13	小野	【授業内容】 アスリートのキャリア形成	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) 日本のアスリートのキャリア形成をめぐる問題 について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。
14	小野	【授業内容】 コーチングの原理	【授業方法】 講義&グループ ディスカッション 形式で行う。	(予習:2時間) コーチの役割と使命について整理しておく。 (復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等 を読んで事後理解を深める。

科目名	健康科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Health Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	佐々木 啓			ナンバリング	
担当教員	佐々木 啓				
授業概要					
全体内容	健康科学領域の中で、特に生活習慣病学と創薬に特化した演習を行い、それらに関する理解を深める。そのために、先ず、生活習慣病の要因や発症機序について各自調べる。さらに、それら疾病の治療法（治療薬開発を含む）と予防法の過去/現在/未来について検証、考察する。また、これら演習成果で足りない部分を講義によって補充し、より確実な知識とする。				
到達目標	1. 生活習慣病について説明できる。 2. 生活習慣病の研究（予防法と治療法の研究）方法について理解し、一部を実施することができる。 3. 新たな薬剤開発のための方法論を理解し、一部を実施することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この授業科目では、「スポーツ健康科学に関する高度な専門的知識」、「スポーツ健康科学に関する研究能力」、及び「高度で先進的な専門業務への応用」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修の要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（30%）とレポート（70%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 総合的な学習態度（出席率を含む）を査定する（平常点）。 2. 必要に応じてレポートを課すことで、この授業の「到達目標」に照らしながら授業内容の修得度を評価する（レポート）。 3. 授業全体をまとめた最終レポート（論文）を作成し、この授業の「到達目標」に照らしながらレポート内容を評価する（レポート）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートの評価は提出後すぐに伝える。関連したアドバイスも行う。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
テキスト/参考書は特に指定しないが、授業内容に関係する論文や総説等の文献を適宜参考にする。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：佐々木啓 E-mail：hirakus[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 日時：前期期間中の水曜日12:20から13:10 場所：1号館4階1410号室 出来るだけ前日までにe-mailで予約をしてください。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容で構成されている。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	佐々木	[授業内容] 授業概要を理解する。 健康科学/生命科学に関する理解を深める。	[授業方法] この授業の進め方、演習の資料、成績の評価などについて解説する。 健康科学と生命科学の入門的な基礎事項について解説する。	（予習：2時間） 各自興味のある「健康科学/生命科学分野のトピック」に関する文献調査等を行い、生命科学の歴史と未来を考察する。 （復習：2時間） 授業で説明した演習の方針をよく理解する。 授業中配布された資料プリントの内容を復習する。	

2	佐々木	[授業内容] 感染症、生活習慣病、創薬について理解を深める（前半）。	[授業方法] 人類と感染症の戦いの歴史、生活習慣病、そして創薬の歴史について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習：3時間) 感染症、生活習慣病、創薬というキーワードの中で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習：1時間) 授業中配布された資料プリントと演習内容について復習する。
3	佐々木	[授業内容] 感染症、生活習慣病、創薬について理解を深める（後半）。	[授業方法] 前回に続き、人類と感染症の戦いの歴史、生活習慣病、そして創薬の歴史について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習：3時間) 前回に続き、感染症、生活習慣病、創薬というキーワードの中で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習：1時間) 授業中配布された資料プリントと演習内容について復習する。
4	佐々木	[授業内容] 自由討論	[授業方法] 感染症、生活習慣病、創薬について、前回、前々回の演習を基に討論を行ない、各自の考えをまとめる。	(予習：2時間) これまでの授業内容を復習することで、各自改めて疑問点や討論すべきトピックスをまとめておく。 (復習：2時間) 授業での討論を各自まとめ、レポートを作成する。レポートは次回提出する。
5	佐々木	[授業内容] 天然物を利用した創薬について理解を深める（前半）。	[授業方法] 様々な天然物を薬剤として利用してきた歴史について発表と討論を行う。また、創薬資源としての有用微生物についても発表と討論を行う。	(予習：3時間) 真菌類やバクテリア等の微生物や植物由来の天然物と創薬の歴史について文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックスをまとめる。 (復習：1時間) 授業での討論を各自まとめ、レポートを作成する。レポートは次回提出する。
6	佐々木	[授業内容] 天然物を利用した創薬について理解を深める（後半）。	[授業方法] 前回に続き、様々な天然物を薬剤として利用してきた歴史について発表と討論を行う。また、創薬資源としての有用微生物についても発表と討論を行う。	(予習：3時間) 真菌類やバクテリア等の微生物や植物由来の天然物と創薬の歴史について文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックスをまとめる。 (復習：1時間) 授業での討論を各自まとめ、レポートを作成する。レポートは次回提出する。
7	佐々木	[授業内容] 薬剤の作用機序について理解を深める。	[授業方法] 代表的な薬剤の作用機序について解説する。また、それら薬剤の作用機序をどのようにして明らかにしてきたのか、それらの歴を解説する。 上記に関連して、各自用意してきたトピックスを発表し、討論する。	(予習：3時間) 様々な薬剤の作用機序と作用機序解明の歴史等について文献調査等を行い、各自興味のあるトピックスをまとめておく。 (復習：1時間) 授業での討論を各自まとめ、レポートを作成する。レポートは次回提出する。
8	佐々木	[授業内容] 細胞の基礎機能について理解を深める。	[授業方法] 細胞の基礎的な機能、とりわけ、細胞分裂と物質の代謝などについて発表と討論を行う。	(予習：3時間) 細胞の基礎的な機能、とりわけ細胞分裂と代謝について参考文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックスをまとめる。 (復習：1時間) 授業での討論を各自まとめ、レポートを作成する。レポートは次回提出する。

科目名	健康科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Health Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期 (AUT)			単位数	2単位
代表教員	松山 毅			ナンバリング	
担当教員	松山 毅				
授業概要					
全体内容	<授業全体の概要> 健康科学領域の中で、特に社会福祉学と地域包括ケアシステムに特化した演習を行い、それらに関する理解を深める。そのために、まず社会福祉学や地域保健学の事例をもとに討議を行い、講義を通して知識の補充を行う。				
到達目標	1. 社会福祉学の基本的な知識について理解する 2. 研究課題について社会問題の文脈で理解する				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	<履修の要件> 特になし <履修上の注意> 特になし				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（50%）とレポート（50%）を総合して評価する				
評価基準	1. 社会福祉学の基本的な知識について説明できる 2. 研究課題について社会問題の文脈で説明できる				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートの評価は提出後、本人に伝え、関連したアドバイスを行う					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
テキスト・参考書は特に指定しないが、授業に関連する論文等の文献は適宜指示する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<連絡先> 担当：松山毅 E-mail:tmatsuya[at]juntendo.ac.jp （[at]を@に変更してください） <オフィスアワー> 水曜日3限 1号館4階1420研究室 ＊上記時間以外でも随時対応いたします。ご連絡ください				
担当教員の実務経験					
備考	この授業は演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	松山(以下同じ)	オリエンテーション	スライド、講義資料、グループワーク	(予習3時間) 自分の研究課題に関連する社会福祉・地域保健のテーマを調べておく	
2		社会福祉領域におけるヘルスプロモーション 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく	
3		社会福祉の思想・哲学 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく	

4		福祉倫理とケア 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
5		健康増進と介護予防 健康と運動の関係について 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
6		ライフステージと健康増進 1 子ども・母子保健 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
7		ライフステージと健康増進2 障害児者と社会参加支援 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	演習	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
8		ケアと健康 健康格差を中心に 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
9		ケアとコミュニティ・まちづくり 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
10		地域包括ケアシステムの理論 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
11		地域包括ケアシステム 他職種連携のネットワーク 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
12		地域包括ケアシステムの実践と評価 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
13		地域共生社会における地域包括ケアシステム 母子保健～老人保健、社会福祉の視点から「包括」を再検討する 方法 事前配布の文献をもとに、ディスカッションと補足説明を行う	スライド、講義資料、グループワーク	(予習2時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
14		総括① 受講者の研究課題に関して、社会福祉・地域保健の観点からの先行研究レビュー	スライド、講義資料、グループワーク	(予習3時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
15		総括② 受講者の研究課題に関して、社会福祉・地域保健の観点からの先行研究レビュー まとめ	スライド、講義資料、グループワーク	(予習3時間) 事前に配布する論文・事例をもとに課題を考察する (復習2時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
定期試験は実施しません				

科目名	健康科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Health Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	黄田 常嘉			ナンバリング	
担当教員	黄田 常嘉				
授業概要					
全体内容	[授業全体の内容] 健康科学領域の中で、特にメンタルヘルスに特化した演習を行い、それらに関する理解を深める。 そのために、まず、メンタルヘルス不調の要因や精神障害の発症機序について各自で調べる。更に、それら障害の研究を検証、考察する。 各精神障害のスクリーニング方法に習熟し、又これら演習成果で足りない部分を講義によって補足し、より確実な知識とする。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 各精神障害について説明できる。 2. 各精神障害の研究方法(スクリーニング)について理解し、一部を実施、解析することができる。 3. 自身で健常者における各精神障害のスクリーニング研究を行うことができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力				
履修上の注意、履修要件	[履修の要件] 特になし。 [履修上の注意(科目独自のルール)] 特になし。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 平常点(70%)とレポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 総合的な学習態度(出席率を含む)を査定する(平常点)。 2. 必要に応じてレポートを課すことで、授業内容の修得度を評価する(レポート)。 3. 授業全体を纏めた最終レポート(論文)を作成し、到達目標の達成具合を評価する(レポート)。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートの評価は提出後、直ぐに伝える。関連したアドバイスも行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書等] テキスト/参考書は特に指定しないが、授業内容に関係する論文や総説等の文献を適宜参考にする。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当: 黄田 常嘉 E-mail: ota[at]juntendo.ac.jp ([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 木曜 1・2限に1216号研究室に在室しています。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 金曜17時以降に精神医学講座の医局に居ります。				
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、精神障害の外来・入院診療、措置入院・後見制度の精神鑑定、学校・企業の健康管理室業務、特別支援教育専門家検診など多彩な実務経験を有する。それらの経験を活かし乍、精神保健に関する実践的講義を展開する。				
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間(授業30時間以上を含む)の学修を必要とする内容で構成されている。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	黄田 (以下同じ)	[授業内容] 授業概要を理解する。 メンタルヘルス・精神障害に関する理解を深める。	[授業方法] この授業の進め方、演習の資料、成績の評価などについて解説する。 メンタルヘルス・精神障害の入門的な基礎事項について解説する。	(予習:3時間) 各自、興味のある「メンタルヘルス・精神疾患のトピック」に関する文献調査等を行い、社会的な事件などとの関連を考察する。 (復習:1時間) 授業で説明した演習の方針をよく理解する。 授業で配布された資料プリントの内容を復習する。
2		[授業内容] 各精神障害の理解を深める(1回) 認知症、依存症。	[授業方法] 認知症、依存症について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習:3時間) 認知症、依存症というキーワードの中で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習:1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
3		[授業内容] 精神障害の理解を深める(2回) 統合失調スペクトラム症、双極症、抑鬱症。	[授業方法] 統合失調スペクトラム症、双極症、抑鬱症について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習:3時間) 統合失調スペクトラム症、双極症、抑鬱症というキーワードの中で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習:1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
4		[授業内容] 精神障害の理解を深める(3回) 不安症、強迫症、心的外傷及びストレス因関連症、解離症、身体症状症	[授業方法] 不安症、強迫症、心的外傷及びストレス因関連症、解離症、身体症状症について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習:3時間) 不安症、強迫症、心的外傷及びストレス因関連症、解離症、身体症状症と云うキーワードの中で、各自が興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習:1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
5		[授業内容] 精神障害の理解を深める(4回) パーソナリティ症	[授業方法] パーソナリティ症について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習:3時間) パーソナリティ症と云うキーワードの中で、各自が興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習:1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
6		[授業内容] 精神障害の理解を深める(5回) 知的発達症	[授業方法] 知的発達症について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習:3時間) 知的発達症と云うキーワードの中で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習:1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
7		[授業内容] 精神障害の理解を深める(6回) 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症	[授業方法] 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。 討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習:3時間) 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症と云うキーワードの中で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 (復習:1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。

8		[授業内容] 勤労者のメンタルヘルス、ストレスチェックについて理解を深める（1回）。	[授業方法] 勤労者のメンタルヘルス問題などについて発表と討論を行う。	（予習：3時間） 勤労者のメンタルヘルスと社会問題で、各自興味のあるトピックを選び、文献等を参考に予習し、授業で発表できるようにする。 （復習：1時間） 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
9		[授業内容] 勤労者のメンタルヘルス、ストレスチェックについて理解を深める（2回）。	[授業方法] 現在のストレスチェック制度と厚労省の方針について発表と討論を行う。	（予習：3時間） ストレスチェックについて文献調査等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏めて、レポートを作成する。レポートは次回までに提出する。
10		[授業内容] 健常者に於ける精神障害のスクリーニングについて（1回）。	[授業方法] 認知症のスクリーニングについて発表と討論を行う。	（予習：3時間） 認知症スクリーニングについて文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏めて、レポートを作成する。レポートは次回までに提出する。
11		[授業内容] 健常者における精神疾患スクリーニングについて（2回）。	[授業方法] 双極症や抑鬱症のスクリーニングについて発表と討論を行う。	（予習：3時間） 鬱病のスクリーニングについて文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏め、レポートを作成する。レポートは次回までに提出する。
12		[授業内容] 健常者における精神障害のスクリーニングについて（3回）。	[授業方法] 不安症のスクリーニングについて発表と討論を行う。	（予習：3時間） 不安症のスクリーニングについて文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏めてレポートを作成する。レポートは次回までに提出する。
13		[授業内容] 健常者における精神障害のスクリーニングについて（4回）。	[授業方法] 物質関連症、嗜癖症のスクリーニングについて発表と討論を行う。	（予習：3時間） 物質関連症、嗜癖症のスクリーニングについて文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏めてレポートを作成する。レポートは次回までに提出する。
14		[授業内容] 健常者における精神障害のスクリーニングについて（5回）。	[授業方法] 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症のスクリーニングについて発表と討論を行う。	（予習：3時間） 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症のスクリーニングについて文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏めてレポートを作成する。レポートは次回までに提出する。
15		総括	[授業方法] 精神障害を巡る問題全般について発表と討論を行う。	（予習：3時間） 精神障害を巡る諸問題について文献等を参考に予習し、疑問点や討議すべきトピックを纏める。 （復習：1時間） 授業での討論を各自で纏めてレポートを作成して提出する。
		定期試験は実施しない。		

科目名	健康科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on Health Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	前鼻 啓史			ナンバリング	
担当教員	前鼻 啓史				
授業概要					
全体内容	＜授業全体の概要＞ 健康科学領域の中で、特にパラスポーツとDEIに特化した演習を行い、パラスポーツとDEIの概観や諸問題に関して実例をもとに討議し理解を深める。また、パラスポーツとDEIを取り巻く現状を多角的・多面的に調査を進め検証をもとに高度な専門的知識を育むものとする。				
到達目標	1. パラスポーツとDEIの概観について説明できる。 2. パラスポーツとDEIを取り巻く諸問題に対して問題意識をもって考察することができる。 3. パラスポーツとDEIを推進・発展させるための方略を提示することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	＜履修の要件＞ 特になし ＜履修上の注意＞ 特になし				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（50%）、授業内での口頭試問（20%）、レポート（30%）を総合して評価する				
評価基準	1. パラスポーツとDEIに関して主体的かつ実践的に学ぶことができる（平常点） 2. パラスポーツとDEIを取り巻く諸問題に対する現状や課題を理解できている（授業内での口頭試問） 3. パラスポーツとDEIを題材とした研究領域・分野に応じた専門的な知識や理解を提示できている（レポート） 上記の各項目における基準をもとに4（Advanced）,3（Proficient）,2（Basic）,1（Needs）の到達水準にてそれぞれ評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートの評価は提出後、本人に伝え、関連したアドバイスをを行う					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
テキスト・参考書は特に指定しないが、授業に関連する論文等の文献は適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	〔連絡先〕 担当：前鼻 啓史 E-mail:h-maehana[at]juntendo.ac.jp （〔at〕を@に変更してください） 〔オフィスアワー〕 ＜さくらキャンパス＞ 日時：木曜日 12:00～12:50 場所：1号館4階1414室 ＜本郷・お茶の水キャンパス＞ メールにて対応します				
担当教員の実務経験	中央競技団体ならびに日本パラスポーツ協会に加盟する競技団体において役員を歴任した経験を有する。それらの経験を活かしパラスポーツやDEIに関する実践的講義を展開する。				
備考	この授業は演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	前鼻 啓史	〔授業内容〕 授業方針の理解/パラスポーツとDEIに関連する概観の整理	〔授業方法：講義〕 この授業の進め方、演習の資料、成績の評価などについて解説する。 パラスポーツとDEIの基本的な概観について解説する。	（予習：2時間） 各自、興味のあるパラスポーツに関する文献調査等を行い、歴史や競技推進方策等との関連を考察する。 （復習：2時間） 授業で説明した演習の方針をよく理解する。 授業で配布された資料プリントの内容を復習する。	

2	前鼻 啓史	[授業内容：講義] パラスポーツにおける国際競技大会の動向	〔授業方法：ディスカッション〕 パラスポーツに関連する国際競技大会の実情について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) 自身のフィールドワークや研究課題と関連が深いパラスポーツ種目における国際競技大会の動向に関して文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
3	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツにおける国内競技大会の動向	〔授業方法：講義〕 パラスポーツに関連する国内競技大会の実情について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) 自身のフィールドワークや研究課題と関連が深いパラスポーツ種目における国内競技大会の動向に関して文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
4	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツに必要な支援：ハード側面	〔授業方法：講義とディスカッション〕 パラスポーツの推進に必要とされる支援（ハード）に関して各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) パラスポーツの推進にあたり必要となるハード側面の支援について文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
5	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツに必要な支援：ソフト側面	〔授業方法：講義とディスカッション〕 パラスポーツの推進に必要とされる支援（ソフト）に関して各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) パラスポーツの推進にあたり必要となるソフト側面の支援について文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
6	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツに必要な支援：ヒューマン側面	〔授業方法：講義とディスカッション〕 パラスポーツの推進に必要とされる支援（ヒューマン）に関して各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) パラスポーツの推進にあたり必要となるヒューマン側面の支援について文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
7	前鼻 啓史	[授業内容] 国際的にみたパラスポーツを行う人の属性	〔授業方法：講義とディスカッション〕 パラスポーツにおける競技者の属性に関して各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) 自身のフィールドワークや研究課題と関連が深いパラスポーツ種目における競技者の属性に関して文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく

8	[授業内容] パラスポーツにみたジェンダーとDEI	[授業方法：講義とディスカッション] パラスポーツにおけるジェンダーとDEIに関する諸問題について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	[授業方法] パラスポーツにおけるジェンダーとDEIに関する諸問題について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) パラスポーツにおけるジェンダーとDEIに関する諸問題について文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
9	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツにおける指導理論と指導方法	[授業方法：講義とディスカッション] パラスポーツ種目における指導方法や指導理論について各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) 自身のフィールドワークや研究課題と関連が深いパラスポーツ種目における指導理論と指導方法について文献等を参考に予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業内で理解できなかったところを調べておく
10	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツのダイバーシティマネジメント	[授業方法：講義とディスカッション] パラスポーツ分野におけるマネジメントについて各自調べた資料を基に発表、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) 各自興味のあるパラスポーツ競技関連団体に関して文献等を参考に各種体制について予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
11	前鼻 啓史	[授業内容] パラスポーツ競技関連団体の視点	[授業方法：講義とディスカッション] 日本パラスポーツ協会に加盟する競技関連団体における組織体制、競技推進体制等について発表し、討論を行う。討論と並行して、教員が関連事項に関する解説を行う。	(予習3時間) 各自興味のあるパラスポーツ競技関連団体に関して文献等を参考に各種体制について予習し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
12	前鼻 啓史	[授業内容] アダプテッド・スポーツ科学における人文・社会科学の最新動向	[授業方法：ディスカッション] アダプテッド・スポーツ科学における自然・医科学分野のレビューを発表し討論を行い、未開拓な領域を検討する。	(予習3時間) アダプテッド・スポーツ科学分野における自然・医科学研究のレビューを整理し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。
13	前鼻 啓史	[授業内容] アダプテッド・スポーツ科学における自然・医科学研究の最新動向①	[授業方法：ディスカッション] アダプテッド・スポーツ科学における自然・医科学分野のレビューを発表し討論を行い、未開拓な領域を検討する。	(予習3時間) アダプテッド・スポーツ科学分野における自然・医科学研究のレビューを整理し、授業で発表をできるようにする。 (復習1時間) 授業で配布された資料プリントと演習内容について復習する。

科目名	環境健康科学特論		授業形態	講義	
英語科目名	Special Discussion of Environmental Health Science		対象学年	1年	
開講学期	2025年度前期 (SPR)		単位数	2単位	
代表教員	佐々木 啓		ナンバリング		
担当教員	佐々木 啓				
授業概要					
全体内容	この授業では、環境と健康の関係性を科学的に考察し、理解を深める。 私たちの健康に影響を与える環境要因とそれらの作用機序について、細胞レベル・分子レベルで理解する。また、各人が環境と健康に関する資料や論文を読み、理解し、内容をまとめて発表する。その発表を基にクラス全体で議論をする。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 生物進化と地球環境について理解できる。 2. 細胞の基本的な仕組みを理解できる。 3. 化学物質の薬理作用と毒性について理解できる。 4. 病原性微生物と有用微生物について理解できる。 5. 健康科学関連の英文論文を読み、理解することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この授業では、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修の要件] 特になし。 [履修上の注意（科目独自のルール）] 特になし。				
成績評価の方法					
評価方法	平常点（30%）、英文論文の読解力とプレゼン（50%）、レポート（20%）を総合して評価する。				
評価基準	1. 授業への取り組み姿勢と出席率を査定する（平常点）。 2. 英文論文の読解力と発表能力を、この授業の「到達目標」と「科学的な理解度、データの解析力」に鑑み査定する（プレゼン）。 3. 必要に応じてレポートの提出を求める（レポート）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンの評価は、その都度講評として伝える。 レポートの内容は授業進行の参考にするものであって返却はしないが、希望者には評価を伝える。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
テキストはない。必要な資料や論文のコピーを授業中に配布する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：佐々木啓 E-mail：hirakus[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 日時：前期期間中の水曜日12:20から13:10 場所：1号館4階1410号室 出来るだけ前日までにe-mailで予約をしてください。。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間を含む）の学修を必要とする内容で構成されている。 [その他] 受講者数によって、授業計画に変更が生じる可能性がある。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	佐々木	[授業内容] ガイダンスと講義	[授業方法] 講義 授業の進め方や成績の付け方などについて説明する。 ガイダンス後、環境と健康に関する入門的な講義を行う。	(予習: 2時間) 環境と健康に関する資料を調べ、各自興味のあるテーマを中心に幅広く勉強しておく。 (復習: 2時間) 授業中に配布した資料プリントを中心に授業内容を復習する。自己紹介を含め、授業中に指定されたテーマについてレポートを書き、次回提出する。
2	佐々木	[授業内容] プレゼンと講義 地球環境と生物進化について理解を深める(前半)。	[授業方法] 地球環境と生物進化について、重要トピックスを交え経時的に解説する。	(予習: 3時間) 生物進化の歴史について予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
3	佐々木	[授業内容] 地球環境と生物進化について理解を深める(後半)。	[授業方法] プレゼンと講義 前回に続き、地球環境と生物進化について、重要トピックスを交え経時的に解説する。	(予習: 3時間) 人類の進化の歴史と地球環境について予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
4	佐々木	[授業内容] 細胞の仕組みを理解する(前半)。	[授業方法] 講義 ヒトの細胞の基本的な仕組みについて生化学的/分子生物学的な解説をする。	(予習: 3時間) ヒトの細胞の仕組みについて予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
5	佐々木	[授業内容] 細胞の仕組みを理解する(後半)。	[授業方法] プレゼンと講義 前回に続き、ヒトの細胞の基本的な仕組みについて生化学的/分子生物学的な解説をする。	(予習: 3時間) ヒトの細胞の仕組みについて予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
6	佐々木	[授業内容] 化学物質の薬理作用と毒性について理解する(前半)。	[授業方法] 講義 いくつかの代表的な化学物質(薬剤と毒物)の作用機序について細胞生物学的/生化学的な解説をする。	(予習: 3時間) 各自興味のある化学物質(薬と毒)について予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
7	佐々木	[授業内容] 化学物質の薬理作用と毒性について理解する(後半)。	[授業方法] プレゼンと講義 前回に続き、いくつかの代表的な化学物質(薬剤と毒物)の作用機序について細胞生物学的/生化学的な解説をする。	(予習: 3時間) 前回に続き、各自興味のある化学物質(薬と毒)について予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
8	佐々木	[授業内容] 金属の役割と毒性について理解する。	[授業方法] 講義 いくつかの代表的な金属の生体内における役割と作用機序について細胞生物学的/生化学的な解説をする。	(予習: 3時間) 各自興味のある金属の生体内での役割について予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。
9	佐々木	[授業内容] 病原性微生物について理解する。	[授業方法] 講義 病原微生物と人類の戦いの歴史と医薬の進歩について解説する。	(予習: 3時間) 病原性微生物について予習しておく。 (復習: 1時間) 授業中に配布する資料プリントを中心に講義内容を復習する。授業に関する小レポートを作成し、次回提出する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神保健学特論			授業形態	講義
英語科目名	Special Discussion of Mental Health			対象学年	1年
開講学期	2025年度前期 (SPR)			単位数	2単位
代表教員	黄田 常嘉			ナンバリング	
担当教員	黄田 常嘉				
授業概要					
全体内容	この授業科目では、精神障害、メンタルヘルスの研究についての博士論文作成に向けた取り組みとその指導を行う。 具体的には、各自の修士論文から研究範囲を広げて文献を収集・考証し、高度な独創性を必要とする課題を提起する。論文抄読会などを通じて、研究課題に適した調査・実験の方法を検討する、研究方法等を明確にした研究計画を提議書として纏める。研究で必要となるデータを検討し、収集・整理・解析する。発表と討議を重ねることで考察を深め、研究成果を博士論文として完成させる。学会発表・論文投稿を行う。				
到達目標	[授業の到達目標] 1. 提議書に基づく調査・実験及びデータ解析を行い考察を加えることで、学会発表、論文投稿を行うことができる。 2. 精神保健、メンタルヘルスの分野で博士論文を完成することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択必修科目に位置付けられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	[授業の位置づけ (学位授与方針に定められた知識・能力等との関連)] この科目は「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」と云う学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 特になし。 [履修上の注意 (科目独自のルール)] この授業科目では、発表や討議が中心となるので、主体的に取り組むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	[成績評価の方法] 課題レポート (20%)、口頭試問 (30%)、平常点 (50%) を総合して評価する。				
評価基準	[成績評価の基準] 1. 課題の検討結果や研究成果を説明できる。(レポート) 2. 文献考証、調査・実験、データ解析、考察を説明できる。(口頭試問) 3. 博士論文に対する取組状況によって授業態度を評価する。(平常点)				
試験・課題に対するフィードバック方法					
[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] レポート、課題については、授業内で必要な情報や改善内容を示す。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
[テキスト・参考書等] 授業中に指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：黄田 常嘉 E-mail: ota[at]juntendo.ac.jp ([at] を@に変更してください) [オフィスアワー] 〈さくらキャンパス〉 木曜 1・2限に1号館2階の1216号研究室に在室しています。 〈本郷・お茶の水キャンパス〉 金曜17時以降は大賀ビル7階の精神医学講座医局に居ます。				
担当教員の実務経験	科目責任者は、精神科専門医、精神保健指定医、公認心理師、臨床心理士として、外来・入院の診療活動、精神鑑定、学校・企業の健康管理室、特別支援教育専門家検診など精神医学に関連した多彩な業務経験を有している。その経験を活かし乍、精神科医療、精神保健に於ける実践的な授業を展開する。				
備考	[学修時間] この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間 (授業30時間以上を含む) の学修を必要とする内容で構成されている。 [その他] ・統計解析ソフト (SPSS)、EndNoteについては事前に予習し、習熟しておくこと。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

科目名	ハイパフォーマンス科学特別演習			授業形態	演習
英語科目名	Special Seminar on High Performance Science			対象学年	1年
開講学期	2025年度後期(AUT)			単位数	2単位
代表教員	和氣 秀文			ナンバリング	
担当教員	和氣 秀文、青木 和浩、高澤 祐治、山中 航、鈴木 良雄、深尾 宏祐、谷本 道哉、福 典之、室伏 由佳、宮本 直和、小泉 和之				
授業概要					
全体内容	アスリートのハイパフォーマンスを支える革新的トレーニング・コーチング方法の開発に寄与する卓越した研究力を養うために、生理・生化学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ医学、データサイエンス、トレーニング・コーチング科学的視点からハイパフォーマンスを引き出すために必要な最先端の知識とその創出に寄与する研究手法について学ぶ。一斉授業であるが、グループワークも行い、協力して授業内容の理解度を深めるようにする。				
到達目標	1. アスリートの競技パフォーマンス向上に寄与する最先端のトレーニング・コーチング方法について説明することができる。 2. アスリートの革新的トレーニング・コーチング方法の開発に向けた独自の研究方法を案出することができる。				
授業の位置づけ	この授業は、スポーツ健康科学研究科 博士後期課程における選択科目に位置づけられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力」及び「国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力」という学位授与方針の達成に寄与する。				
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 博士前期課程開講科目の「ハイパフォーマンス科学」を履修すること。生理学や生化学の基礎的な知識を学修しておくこと。 [履修上の注意（科目独自のルール）] ・事前に配付されている資料に基づき、予習と復習をするように努めること。単位の取得には、授業回数の3分の2以上出席していること、授業態度が良好であること、かつ試験（レポート課題）に合格することが前提である。 ・ハイパフォーマンス科学認定プログラム履修者は必修とする。				
成績評価の方法					
評価方法	レポート（80%）、平常点（20%）を総合して評価する。				
評価基準	1. アスリートの競技パフォーマンス向上に寄与する最先端のトレーニング・コーチング方法について論理的に説明することができる（レポート）。 2. アスリートの革新的トレーニング・コーチング方法の開発に向けた独自の研究方法を案出することができる（レポート）。 3. 授業中の発言、予習・復習の取組状況、グループワークにおける貢献度によって授業態度を評価する（平常点）。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートは翌週の授業で返却して、評価や助言を各受講者へフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
授業の際に提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：和氣 秀文 E-mail：hwaki[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 日時：前期期間中の火曜日12：20から13：10 場所：スポーツ健康医科学研究所3階 生理学研究室（9304） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間と重ならないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。				
担当教員の実務経験					
備考	[学修時間] この授業は、演習の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 [その他] この授業は、ハイパフォーマンス科学認定プログラムの必修科目として位置付けられている。アスリートの競技パフォーマンス向上を支援する独創的な研究の推進と現場指導（実践）について興味を持ち、高い学修意欲をもって授業に臨むこと。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	和氣 秀文	〔授業内容〕 ガイダンス	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) 陸上競技、体操競技、球技、武道について、どのようなトレーニングが行われているか、それぞれの特徴について調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
2	和氣 秀文	〔授業内容〕 生理学的視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に運動と呼吸循環器系に着目した研究について理解を深める。	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) 運動と呼吸循環器系について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
3	山中 航	〔授業内容〕 生理学・神経科学的視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特にスポーツ競技場面において情動がどのようにパフォーマンスに影響しているかという観点からディスカッションを行う。 〔キーワード(参考)〕 神経科学、情動、自律神経系	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) 運動の神経系制御について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
4	宮本 直和	〔授業内容〕 骨格筋のバイオメカニクス・生理学的視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に、パフォーマンスやスポーツ外傷・障害に関連する骨格筋の力学的特性についてディスカッションを行う。 〔キーワード(参考)〕 骨格筋、形状、機能、力学的特性	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) 筋のバイオメカニクス・生理学的特性について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
5	谷本 道哉	〔授業内容〕 生理学、解剖学、運動力学の視点から効果的な筋力トレーニングの方法を学ぶ。また、その効果を検証する研究手法について考える。 〔キーワード〕 筋肥大、筋力増強、関節モーメント	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) 筋力トレーニングの基礎について調べる。興味をもったトレーニングに関する研究論文に目を通しておく。 (復習: 1時間) 授業内容を振り返り、A4枚程度に要旨をまとめる。その中で新たな課題を提案できることが望ましい。
6	鈴木 良雄	〔授業内容〕 栄養・生化学的視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に。 〔キーワード(参考)〕 栄養・生化学	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) アスリートの栄養補給の原理原則について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
7	福 典之	〔授業内容〕 スポーツ遺伝学的視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に、スポーツパフォーマンスやスポーツ外傷・障害に関わる遺伝要因について議論する。 〔キーワード(参考)〕 スポーツパフォーマンス、スポーツ外傷・障害、遺伝子多型	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) スポーツ生化学・スポーツ遺伝学の基礎について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
8	高澤 祐治	〔授業内容〕 スポーツ医学(運動器)の視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に、スポーツ外傷・障害の予防、診断、競技復帰に至る過程で、アスリートのパフォーマンス向上や競技生活を長く保つために何ができるか?何をすべきか?という観点から検討、議論する。 〔キーワード(参考)〕 スポーツ外傷・障害、外傷障害予防、Return to Sports	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) アスリートに見られる代表的なスポーツ外傷・障害(脳振盪を含む)について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
9	深尾 宏祐	〔授業内容〕 スポーツ医学(内科系)の視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に、アスリートに多い内科的疾患やオーバートレーニングについて知識を整理し、より良いコンディショニングに必要なことについて検討する。 〔キーワード〕 Sports Cardiology、スポーツ心臓、オーバートレーニング症候群	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) スポーツ心臓、オーバートレーニング症候群について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
10	室伏 由佳	〔授業内容〕 アンチ・ドーピング(スポーツ医学)の視点からアスリートのドーピング予防に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に、教育介入による知識やリスク管理行動等の変化について、統計解析の手法を交えて検討を行う。 〔キーワード(参考)〕 アンチ・ドーピング、クリーンスポーツ	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) アスリートのドーピング問題について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。
11	小泉 和之	〔授業内容〕 スポーツデータサイエンス的視点からパフォーマンスの向上に寄与する最先端の知識と研究手法について学ぶ。特に既存の測定されたデータとパフォーマンスとの関係性をどのように繋ぐのかを例を通じて学ぶ。また、今後の技術の進化によってスポーツがどう変化していくかについても考察する。 〔キーワード〕 スポーツデータサイエンス、スタッツ	講義形式で行う。 必要に応じてグループワークを行う。	(予習: 3時間) スポーツデータサイエンスの基礎について説明できるように調べておくこと。 (復習: 1時間) 配布プリントをよく読んでおくこと。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）